

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	保健福祉局
						担当課	障害福祉課
事業概要						課長名	末吉
						事業名	
総合療育センター再整備事業						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)	
施設の老化や障害児・者のニーズの多様化、拡大等に対応するため、北九州市立総合療育センターを再整備します。							
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.20人		
	170,800 千円	千円		7,300 千円	係長 0.20人 職員 0.40人		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	平成25年度に作成した基本計画を踏まえて、平成26年度は、より具体的な基本設計を実施しました。今後再整備を行うためには、これを踏まえて実施設計を行う必要があります。
			基本設計を踏まえ実施設計を行い、再整備を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	新北九州市立総合療育センター	施設の老化や障害児・者のニーズの多様化、拡大化等の課題に対応するため、北九州市立総合療育センターの建替えを行います。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 新北九州市立総合療育センターの開所 施設の老化等に対応するため、建替えを行うこととし、平成30年度の新北九州市立総合療育センターの開所を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成30年度 開所	上段:25年度実績 下段:26年度実績 -	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			単年度目標設定なし		

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成30年度の開所に向けて、実施設計を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 新総合療育センターの実施設計の実施 平成26年度に作成する基本設計に基づき、実施設計を行います。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 基本計画の作成	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			実施設計の実施		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課		
		課長名	名越		
事業概要					
事業名	ボランティア活動促進事業				施策番号
					I - 3 - (2) - ②
事業概要	地域福祉の振興を図るため、北九州市社会福祉協議会が実施しているボランティアの育成、コーディネート、活動支援、関係機関との連携による情報収集・発信等のボランティア活動促進事業に対して補助しています。				事業手法
					<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費
		35,087 千円	千円		目安の金額 課長 0.05 人 2,325 千円 係長 0.10 人 職員 0.10 人
(人件費備考)					

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 福祉制度の改革等に伴い、多様化するニーズに対応するため、ボランティア活動の活性化が求められています。	見直し内容	ボランティア・市民活動センターの活動に対し、引き続き補助金を交付し、ボランティアコーディネートや活動の相談など、ボランティアが活動しやすい環境づくりを進めていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) ボランティア活動	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ボランティア団体とのネットワークの構築、ボランティアに関する普及・啓発活動の実施、ボランティアの養成などを総合的に支援するとともに、地域におけるボランティアの情報収集、コーディネートを行い、ボランティア活動の活性化を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) ボランティア登録団体数 ボランティアの活性化のため、指標として掲げています。活動者の支援をしています。 (最終目標と目標年度) 前年度比増(毎年度) ボランティア登録人数 ボランティアの活性化のため、指標として掲げています。活動者の支援をしています。 (最終目標と目標年度) 前年度比増(毎年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 前年度比増 前年度比増	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	

活動計画	どうやって目的を達成するか ①ボランティア活動についての相談や援助 ②ボランティアグループの育成と活動助成 ③ボランティアの養成と研修 ④ボランティア活動の登録とコーディネート	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) ボランティア活動に関する相談件数 ボランティア活動の依頼や、各種事業のコーディネートなど、ボランティア・市民活動センターにおける相談件数を指標としました。 夏休みボランティア体験学習の参加者数 ボランティアとして活動する契機となるよう実際にボランティア活動を体験できる機会を提供する夏休みボランティア体験学習の参加者数を指標としました。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 33,000 件 1,500 人	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課		
		課長名	名越		
事業概要					
事業名	社会福祉ボランティア大学校運営委託				施策番号
					I - 3 - (2) - ②
事業概要	地域福祉活動やボランティア活動を担う人材育成に資するため、ボランティア・市民活動センターと一体となり、市民に広く研修機会を提供します。研修事業は社会福祉法人北九州市社会福祉協議会に委託しています。				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
					()
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人
	31,478 千円	千円	人件費	2,325 千円	係長 0.10 人 職員 0.10 人
					(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 地域福祉を担う人材の育成に取り組むとともに、その研修成果が地域での福祉活動に活かせる仕組みづくりが求められています。	見直し内容	研修後、ボランティア活動に取り組む受講生に対するフォローアップ研修の実現を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	地域福祉を担う人材	人材育成・強化を図るための各種研修事業を実施し、地域住民の福祉に対する知識の向上や、住民参加で福祉サービスの利用者を支える仕組みづくりを目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	ボランティア大学校の研修の受講者数(単年度)	3,404 人	2,400 人		
	市内のボランティアの育成に関して、一定程度の研修機会を提供できたかを計るため、受講者数を指標とします。				
	(最終目標と目標年度) 2,400人(毎年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか 研修事業ごとの開催回数及び日数については研修事業計画のとおり行っています。その他、研修の実施内容については、その都度市と受託者が協議して実施しています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	ボランティア大学校の研修・講習の開催回数	51 回	38 回		
	ボランティア活動等を担う人材の育成や、スキルアップを図るため、ボランティア大学校で開催する各種研修等の回数を指標とします。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局					
		担当課	高齢者支援課					
		課長名	金井					
事業概要		施策番号						
事業名	権利擁護・市民後見促進事業				I - 3 - (2) - ③			
事業概要	弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職による第三者後見人が将来不足することに備え、契約能力の低下した認知症高齢者等に対し、福祉サービスの利用調整や日常生活の見守りを中心とした成年後見業務を担う「市民後見人」を養成するとともに、養成した後見人を登録し、後見業務を法人として提供する機関に補助金を交付し、成年後見制度の利用促進を図ります。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人	(人件費備考)
		7,520 千円	千円			3,075 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 高齢化の進行や、認知症高齢者数の増加に伴い、第三者後見人の不足が見込まれます。さらに、後見人の担い手として養成研修を行い、安定した成年後見制度の推進を図る必要があります。	見直し内容	引き続き養成研修を行うとともに、研修修了者の活躍の場を確保するため法人後見の補助を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 判断能力が不十分な高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 権利が守られる状態にします。そのために担い手を育成し権利を守るサービスを提供します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 法人後見受任件数(年度末件数) 市民後見人養成研修の修了者が第三者後見人として単独で後見業務を受任することが現状困難な為、北九州市社会福祉協議会が市民後見人の受け皿となって法人後見業務を行い、成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)前年度水準維持(毎年度)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 48 件	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			前年度水準を維持		

活動計画	どうやって目的を達成するか 市民後見人養成研修を実施するとともに、家庭裁判所等の関係機関と連携を強め、市民後見人を活用した法人後見業務を提供します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 市民後見人養成数(累計) 社会貢献活動に熱意を抱く市民を対象に市民後見人養成研修を行っていくことで、成年後見制度の担い手を増やしていきます。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 106 人	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			前年度比増		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理 【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	保健福祉局
						担当課	高齢者支援課
						課長名	金井
事業名	年長者研修大学校及び北九州穴生ドーム運営事業					施策番号	
						I - 3 - (2) - ③	
事業概要	年長者研修大学校(周望学舎・穴生学舎)及び北九州穴生ドーム、並びに生涯現役夢追塾の運営を行います。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
		153,885 千円	千円			4,825 千円	係長 0.20 人 職員 0.30 人
							(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の 評価結果 を受けて の課題	多くの高齢者が利用し、高齢者の生きがいづくりや仲間づくり、地域活動、ボランティア活動等の促進につながる運営を行う必要があります。	見直し内容
			募集PRの強化や講座の充実を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	高齢者(概ね60歳以上)	教養、健康、趣味、レクリエーション等の生きがいづくりや健康づくりを促進するとともに、地域活動を担う高齢者の人材育成を図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	修了生の地域活動への参加状況	41.9 %	前年度比 増		
	教養、健康等の講座を通じた高齢者の生きがいづくりや仲間づくりを進めるとともに、地域活動の講座を通じたボランティア活動等の促進を目指します。				
	(最終目標と目標年度) 前年度比増加(毎年度)				

活動計画	どうやって 目的を達成するか	高齢者の生きがいづくり、健康づくり、地域活動を担う人材育成のためには、当事業は重要であると考えています。今後とも、講座内容等を適宜見直ししていくなど、事業の目的に沿った運営を図っていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)
	延べ利用者数	74,568 人	前年度比 増	
	年長者研修大学校については、研修コース、利用者数だけでなく、ボランティア、同好会活動等の利用者も加えることにより、高齢者の生きがいづくりや健康づくり、人材育成の総合的な目安としています。			
	ボランティア活動による延べ利用者数	11,499 人	前年度比 増	
年長者研修大学校については、地域活動を担う高齢者の育成に関する指標として、利用状況の中でもボランティア活動による利用者数を目安としています。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課		
		課長名	名越		
事業概要					
事業名	いのちをつなぐネットワーク事業				施策番号
		II - 1 - (1) - ①			
事業概要	住民と行政の力を結集し、地域における既存のネットワークや見守りの仕組みを結び付け、セーフティネットの網の目を細かくすることによって、高齢者のみならず、支援を必要としている人が社会的に孤立することがないよう地域全体で見守り、必要なサービス等につなげていく取組みです。				事業手法
		<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額
		10,004 千円	千円	人件費	172,200 千円
				課長 0.30 人	係長 16.50 人
				職員 0.50 人	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の 評価結果 を受けて の課題	福祉協力員や民生委員等地域の支援者間との連携強化を する必要があります。	見直し内容
		地域活動者や民間企業等、いのちをつなぐネットワーク事業のさらなる協力者の 開拓が必要です。	

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
		地域高齢者等の支援を必要としている人	地域の見守りや支援の網の目に結び付け、社会的に孤立することがないようにしたい。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
		いのちをつなぐネットワーク推進会議の参加団体数	47 団体	80 団体	
		地域福祉活動を積極的に支援するとともに、活動を広めたり、活動者間の連携を促進するなど、活動しやすい環境づくりに取組みます。これにより、支援を必要とする人が地域の中で孤立しない、地域の見守り体制づくりを目指します。 (最終目標と目標年度) 前年度比増(毎年度)			

活動計画	どうやって 目的を達成するか	出前講演による啓発や地域団体・民間企業等が参加するいのちをつなぐネットワーク推進会議を開催し、全市的な取組みを推進します。 また、地域の会合に積極的に参加し、福祉活動を行う市民と意見交換や情報提供を行います。そして、支援が必要な人に関する地域からの個別相談に対しては、区役所内部の連携及び関係機関との協力により、行政サービスにつなぐ、地域による見守り活動を支援します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
		地域会合への参加(回数)	1,728 回	1,750 回	
		事業啓発のため出前講演を行ったり、地域の会合に参加し意見交換や情報提供を行うなど地域福祉活動を支援しています。			
		見守りの充実(相談1件あたりの連絡先件数)	3.97 件	前年度比増	
		個別相談を受けた後、民生委員や福祉協力員、行政関係や協力会員等、地域での見守りのネットワークを拡げていくことを目指していきます。			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

事業概要					担当局	保健福祉局
					担当課	監査指導課
					課長名	今吉
事業名	北九州市保健福祉オンブズパーソン事業				施策番号	
					II - 1 - (1) - ①	
事業概要	市が実施し又は所管する保健福祉サービスに関する利用者及び利用希望者からの苦情を、中立かつ公正な第三者(保健福祉オンブズパーソン)が面談し、市の機関へ調査や報告を求めてその内容を審理し、不当な点があればその是正を勧告するなどの苦情処理を行います。 保健福祉オンブズパーソンは、人格が高潔で社会的信望が厚く、保健福祉、法律等に関し優れた識見を有する者のうちから、市長が任命しています。 当事業は、既存の苦情処理制度である広聴制度(市民のこえ、市長への手紙)や法定救済制度(行政不服審査制度、行政事件訴訟制度)を補充するものです。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額 課長 0.20 人 係長 1.00 人 職員 0.00 人 (人件費備考)
	1,095 千円					12,300 千円

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 本事業において、苦情申立ては実名で申請する必要がありますが、匿名での相談も多くみられます。苦情申立てや苦情相談について、一層丁寧な事業説明や対応により、公正で信頼される保健福祉行政の推進に努めていく必要があると考えます。	見直し内容 公正で信頼される保健福祉行政の推進に向けて保健福祉サービスに関する苦情の解決を図るため、各区での巡回相談会やホームページ、ポスター、パンフレット等によるPRを実施します。また、病気・障害等により事務局へ相談に来ることができない場合、事務局が訪問して相談を伺うこともあります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市が実施し又は所管する保健福祉サービスに関する利用者及び利用希望者からの苦情	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 中立かつ公正な第三者である保健福祉オンブズパーソン(弁護士、大学教授、社会福祉士など)を通じて、簡易かつ迅速に苦情を処理することにより、利用者等の権利及び利益を保護し、保健福祉サービスの質の確保を図るとともに、公正で信頼される保健福祉行政を推進します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 公正で信頼される保健福祉行政を推進する	上段:25年度実績 下段:26年度実績 —	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	保健福祉サービスの質の確保を図るとともに、公正で信頼される保健福祉行政を推進します。		公正で信頼される保健福祉行政の推進		
	(最終目標と目標年度)公正で信頼される保健福祉行政の推進				

活動計画	どうやって目的を達成するか 公正で信頼される保健福祉行政を推進するため、保健福祉サービスに関する苦情の解決を図ります。また、各区での巡回相談会やホームページ、ポスター、パンフレット等によるPRも実施します。実施方法は、中立かつ公正な立場で委嘱されたオンブズパーソンによる苦情解決や事業のPRを、市が直接実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 相談受付件数	上段:25年度実績 下段:26年度実績 188 件	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	保健福祉サービスに関する苦情や相談を解決し、公正で信頼される保健福祉行政の推進を図ります。		簡易かつ迅速な処理		
	巡回相談会の実施	12 回	12 回		
	保健福祉オンブズパーソン事業を推進するため、各区を巡回する相談会を実施します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	保健福祉局					
		担当課	保護課					
		課長名	早崎					
事業名	生活保護受給者に対する自立支援事業		施策番号 II - 1 - (1) - ①					
事業概要	多様で複雑な問題を抱える生活保護受給者に対し、それらの問題を解決し生活保護から自立できるように、就労支援プログラム等の各種自立支援プログラムを活用し、専門的に支援する職員(専門員)を各区に配置するなど、福祉事務所における自立支援体制を拡充し、支援を行います。		事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()					
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.20 人	係長 0.50 人	職員 0.00 人	(人件費備考)
	175,500 千円	千円		7,300 千円				

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 ①就労意欲の乏しい就労支援対象者への支援について ②ハローワークとの連携について	見直し内容 ①平成25年度より全区で行っている就労意欲喚起事業の一層の充実を図るとともに、生活習慣等に問題があり、直ちに求職活動を行うことが困難な者への支援のため、被保護者就労準備支援事業を実施する。 ②生活保護受給者等を対象とした「ハローワークの常設窓口」を区役所内に設けたり、ハローワークからの巡回相談により連携強化に努める。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	生活保護受給者	少しでも早く生活保護から自立できるよう、自立支援体制の拡充を図り、効果的な自立支援を行います。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	就職者数	1,700 (うち廃止:498 人世帯)	被保護者の自立促進		
	生活保護受給者の経済的自立に向けて、一人でも多くの就職者を出すことが重要です。 (最終目標と目標年度) 被保護者の自立促進				
	効果額(保護費削減額)	597,995 千円	被保護者の自立促進		
	効果額は、就職による保護費削減効果額です。就労収入による削減効果と廃止(生活保護からの自立)による削減効果の二つがあります。 (最終目標と目標年度) 被保護者の自立促進				

活動計画	どうやって目的を達成するか 経済雇用状況がまだまだ厳しい中、生活保護受給者とその能力を十分に活用し、自立を図るために、求人開拓の専門員を配置し、福祉事務所直接職業を紹介します。課題となっている就労意欲の乏しい対象者に対し、就労意欲喚起事業を平成24年度は小倉北区でモデル事業として実施し、平成25年度からは全ての区で展開します。また、生活習慣等に問題があり、直ちに求職活動を行うことが困難な者への支援策として、被保護者就労準備支援事業を行い、自立支援のための体制を構築し、自立支援を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	自立支援プログラムの活用数	4,957 件	4,900 件		
	生活保護受給者が経済的に自立するためには、まず、自立支援プログラムの活用を積極的に行う必要があります。				
	就労支援専門員等の配置数	32 人	32 人		
	就労支援に関する豊富な経験と知識を持った専門員を配置し、福祉事務所における自立支援体制を確保する必要があります。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課		
		課長名	名越		
事業概要					
事業名	民生委員活動支援事業				施策番号
					Ⅱ - 1 - (1) - ①
事業概要	民生委員・児童委員は、社会福祉の精神をもって、高齢者をはじめ生活困窮者、児童、障害者(児)、など援護を必要とする者に相談・助言を行い、福祉事務所や社会福祉施設などと密接に協力しながら、地域社会の福祉の増進を図っています。その民生委員・児童委員の委嘱、広報、研修などを行っています。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.30 人
	157,689 千円	千円		45,450 千円	係長 2.40 人 職員 2.40 人
(人件費備考)					

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 民生委員の欠員地区が継続して発生しています。更なる民生委員の負担を軽減や、次世代を担う人材育成等を検討する必要があります。	見直し内容	民生委員活動の広報啓発、民間企業退職者への地域ボランティアの協力依頼、欠員地区の補充についての検討を行います。また、福祉協力員と民生委員の連携強化、負担軽減策の継続実施を行います。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 地区内の生活に困窮している人、児童、心身障害(児)者、高齢者など、援護育成を必要とする人	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) いのちをつなぐネットワークなどと連携し、支援が必要な人が孤立することなく必要な支援を受けられる安全で安心なまちを目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 相談・支援件数 民生委員の活動のうち、活動記録に記載する相談・支援件数の維持を目標とします。 (最終目標と目標年度)前年度並みの水準の維持(毎年度)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 94,164 件	27年度目標 95,000 件	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	充足率 民生委員の定数に対する充足率を目標とします。 (最終目標と目標年度)前年度並みの充足率の維持(毎年度)	98.2 %	99 %		

活動計画	どうやって目的を達成するか 民生委員になるべく負担がかからるように配慮しつつ、相談・支援件数を維持できるようにします。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 民生委員活動の充実 民生委員の負担軽減に向けた研究結果を踏まえ、活動支援、研修、広報を通じ、民生委員活動の充実を目指します。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 -	27年度目標 民生委員活動の充実	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理 【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	保健福祉局
		担当課	保健医療課
事業名 救急医療体制の維持・確保		課長名	佐野
		施策番号 Ⅱ - 1 - (2) - ①	
事業概要 夜間や休日における救急医療体制の維持・確保をします。		<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
		(人件費備考)	
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
	1,077,558 千円	千円	目安の金額 課長 4.30 人 係長 17.30 人 職員 7.70 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	救急医療体制の維持・確保にあたっては、継続的な医師確保が重要な課題となっており、医師会や大学病院等医療関係機関の協力が欠かせない状況となっています。また、救急医療を実施している医療機関では、医師や医療スタッフの確保など人的・経済的な負担が大きいため、輪番制による二次応需体制など負担軽減に資する体制確保や財政的支援を継続的に行う必要があります。	見直し内容
		引き続き、市民が夜間や休日においても、安心して医療を受けられるよう初期から三次までの救急医療体制を維持していきます。	

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 救急医療体制	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市民が夜間や休日においても、安心して医療を受けられる体制の維持・確保	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	救急医療体制の維持	維持	維持		
	夜間・休日急患センター・休日急患診療所の運営、テレフォンセンターにおける病院紹介や医療相談業務、深夜帯の初期救急体制の整備、眼科・耳鼻咽喉科の初期救急医療体制の整備、二次応需体制の整備など、初期から三次までの救急医療体制の維持に努めます。				
	(最終目標と目標年度) 救急医療体制の維持				

活動計画	どうやって目的を達成するか 全国的な医師不足が続いており、本市においても救急医療の維持確保は困難な状況にありますが、引き続き、救急医療体制の維持確保に努めます。また、テレフォンセンターにおいてテレフォン相談員による医療相談、市内の病院紹介等を行います。さらに、救急医療体制、適正受診、かかりつけ医等について市民の理解向上等のため、啓発活動を推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	救急医療体制の確保	関係機関との連携を図り、救急医療体制を確保	医師会をはじめとする関係機関との連携を図り、救急医療体制を確保		
	全国的な医師不足が続いており、本市についても救急医療に携わる医師等の確保は厳しい状況にあります。急患センター出務医師や二次救急医療協力病院などを確保していくため、医師会をはじめとする関係機関との連携を図り、救急医療体制の確保に努めます。				
	適正受診等の啓発	救急医療体制の維持・確保のため、適正受診等の促進を図る啓発を実施	救急医療体制の維持・確保のため、適正受診等の促進を図る啓発を実施		
	救急医療体制の維持・確保のため、市政だよりや民間が発行する情報誌等により、適正受診(昼間に受診する時間がないなどの個人的な事由によらず、真に救急医療が必要な方が受診)等の促進を図るよう啓発に努めます。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	保健福祉局				
		担当課	保健医療課				
事業名		課長名	佐野				
		施策番号		Ⅱ - 1 - (2) - ①			
事業概要		事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()				
小児救急医療体制の充実を図るとともに、小児医療体制に関する先進都市を目指します。			(人件費備考)				
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10人
		3,130 千円	千円			2,900 千円	係長 0.10人 職員 0.10人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 本市が、小児医療の先進都市を目指していくためには、今後も、小児医療に関する関係者と連携し、小児医療における様々な課題の検討を行うことが必要であり、また、これらの取り組み状況を市内外の医療関係者等にアピールしていく必要があります。また、小児医療関係者の資質の向上を目指す必要があるため、ワークショップの研修内容などについて見直しを行っていく必要があります。	見直し内容	引き続き、小児救急医療における様々な課題について検討を行うため、昨年と同規模の予算で小児救急ネットワーク部会を開催するとともに、医師・看護師の資質の向上のためのワークショップの内容、開催時期などについて見直しを図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 小児医療	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 小児救急をはじめ、虐待防止、療育医療など小児医療に関する先進的な取り組みの充実を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 小児医療の先進都市づくり 本市はこれまで、小児救急医療体制の充実を目標に、24時間365日対応の小児救急医療体制をはじめ、虐待防止、療育医療などの分野においても先進的な取り組みを実施しており、引き続き小児医療の先進都市を目指します。 (最終目標と目標年度) 小児医療の充実	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標 小児医療の充実	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか 小児救急医療における様々な課題について検討を行うため、小児救急ネットワーク部会を開催するとともに、医師・看護師の資質の向上のためのワークショップを開催していきます。また、引き続き本市の取り組みについてPRを行っていきます。さらに、新型インフルエンザが発生した場合には、これまでの取り組みを活かし、早急かつ効果的な対応ができる小児救急医療体制の整備に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 小児先進都市づくり会議等の開催 小児救急センターや小児救急ネットワーク体制の維持確保や更なる充実を図るとともに、小児科医の確保やかかりつけ医の定着促進などについて協議を行い、小児医療の先進都市を目指します。このため、先進都市づくり会議や、この部会である小児救急ネットワーク部会を開催します。	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標 小児医療の先進都市を目指すため、先進都市づくり会議等を開催します	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	小児救急医療ワークショップの開催等 小児救急医療に携わる医師、看護師等を対象に、実践的な手技手法が学べるワークショップを開催し、関係者の技術の向上を図るとともに、本市の小児医療に関する取り組みを市内外の医療関係者等にアピールします。	開催 開催	医療関係者の技術の向上を図り、本市の取り組みをアピールするためワークショップを開催します		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局	
		担当課	保健医療課	
		課長名	佐野	
事業名	産婦人科・小児科臨床研修医等支援事業			
II - 1 - (2) - ①				
事業概要	産婦人科・小児科医師の確保を支援するための事業への助成を行います。			
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
		10,000 千円	千円	目安の金額 課長 0.10 人 2,900 千円 係長 0.10 人 職員 0.10 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	本事業を利用した研修医はその後も市内医療機関に勤務しており、医師確保策として一定の成果を上げていますが、毎年、研修医の確保に苦慮しています。そのため、事業の内容などについて検討する必要があります。	見直し内容 本事業を利用した研修医はその後も市内医療機関に勤務しており、医師確保策として一定の成果を上げていますが、毎年、研修医の確保に苦慮しています。そのため、事業の内容などについて検討する必要があります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			
	周産期医療及び小児救急医療	全国的な医師不足が続いており、その中で特に不足している産婦人科、小児科医師などの確保を支援していく必要があります。このため、北九州市医師会が行う医師確保に関する事業へ助成を行い、周産期医療及び小児救急医療の安定的な提供や充実に寄与していきます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	産婦人科、小児科医師の確保	産婦人科、小児科医師などの確保にかかる事業を支援	産婦人科、小児科医師などの確保にかかる事業を支援します		
	周産期医療及び小児救急医療を安定的に提供していくため、産婦人科、小児科医師などの確保にかかる事業を支援していきます。				
	(最終目標と目標年度)産婦人科、小児科医師の確保				

活動計画	どうやって目的を達成するか	全国的に産科医師が減少し、分娩できる医療機関も減少しています。このため、本市における周産期に関わる連携体制の維持確保に努めます。また、これらの体制を維持するために、引き続き、北九州市医師会が実施する後期臨床研修医への研修等に助成を行うとともに、これらの医師確保事業のPRIにも努めます。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由		
	後期臨床研修医への支援		後期臨床研修への助成を行い、安定的な医師確保に努めます				
	北九州市医師会が、産婦人科及び小児科の医師を対象に、市内の複数の医療機関で実施する後期臨床研修への助成を行い、これら医師の定着を図り、安定的な医師確保に努めます。なお、これら研修を受けた研修医は、その後、市内の医療機関に勤務しており、定着化に効果を示しています。						
	医療講習会等の開催		講習会や協議会等への補助を行い、周産期医療等の充実に努めます				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

事業概要					担当局	保健福祉局
					担当課	生活衛生課
					課長名	平井
事業名	感染症対策推進事業				施策番号	
					Ⅱ - 1 - (2) - ②	
事業概要	感染症に係る基盤整備、指導・相談や関係機関との連携活動等を行い、感染症の発生、まん延防止の施策を行うものです。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	21,199 千円	千円			4,400 千円	(人件費備考)担当課のみ。ただし、担当課以外にも保健所、各区保健福祉課など多くの関係部署が関わっています。

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 感染症予防のための研修を定期的に継続して実施することで、感染予防の普及啓発に努めるとともに、感染症に関する市民へのタイムリーな情報発信に尽力します。	見直し内容 ・昨年並みの予算で、感染症予防研修会参加施設の増加を図るとともに、感染症発生状況及び参加者のニーズ等に応じた研修内容・研修範囲の拡充に努めます。 ・発生動向を注視しながら、流行時期前の予防啓発を強化します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民 市内医療機関 医療従事者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市内における感染症の発生予防、早期発見及び拡大防止、集団発生事例の減少を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	健康危機管理の整備・強化	—	健康危機管理の整備・強化		
	感染症対策は幅広く、講演会の開催内容も、その時々々の発生動向に応じて決定し、タイムリーに知識の普及を図ることが重要です。そのため、特定の講演会への参加回数や参加者の満足度は、事業(活動)の評価を数値で表すことは困難です。				
	(最終目標と目標年度) 健康危機管理の整備・強化				

活動計画	どうやって目的を達成するか ①感染症対策研修会(平成26年度より名称変更(前:感染症対策指導者養成研修会)) ②感染症にかかる研修会(院内感染対策研修会等) ③感染症予防に対する普及啓発 ④風しん抗体検査の実施	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	感染症予防研修会参加施設数(単年度)	358 施設	290 施設		
	各研修会等における参加施設数				
	風しんの流行の予防及び先天性風しん症候群の発生予防	①0 件 ②1587 人	①0 件 ②1,200人		
	①先天性風しん症候群の発生届出数 ②風しん抗体検査の受検者数				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局	
		担当課	生活衛生課	
		課長名	平井	
		事業概要		
事業名	新型インフルエンザ対策事業			施策番号
				Ⅱ - 1 - (2) - ②
事業概要	平成21年4月に発生した新型インフルエンザ(A/N1H1)対策を踏まえ、今後の再流行や新たな新型インフルエンザ等感染症の発生に備えた検討などを行い、必要な対策の充実を図るものです。			■ 直営 ■ 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
		16,912 千円		
				目安の金額
				課長 0.30 人
				係長 0.30 人
				職員 0.30 人
			8,700 千円	(人件費備考)担当課のみ。ただし、担当課以外にも危機管理室、保健所、各区保健福祉課など多くの関係部署が関わっています。

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	現状に即した医療体制の再整備に伴い、関係機関との連携の強化、医療資器材の確保及び検査体制の充実のために、計画的に準備を進めていく必要があります。また、平時から市民に対する情報提供が重要であることから、引き続き、予防啓発を行う必要があります。	見直し内容 引き続き、協力医療機関の意向等を確認しながら、医療資器材の備蓄(个人防护具等)を進め、医療体制の再整備に努めます。また、関係部署と連携を図りながら、検査体制の充実・強化、市民への予防啓発に取り組んでいきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	新型インフルエンザ等感染症発生時における医療体制ならびに相談体制	新型インフルエンザ等感染症による市民の感染を最小限に抑えるとともに、社会的な混乱を避けるため、発生段階や発生状況に応じた医療体制の維持・確保を目指し、発生時においては、市民に対して適切な医療体制ならびに相談体制が提供できるようにします。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	新型インフルエンザ等感染症の発生に備えた対策 新型インフルエンザ等感染症による市民の感染を最小限にとどめるために、発生段階や発生状況に応じた医療体制や相談体制について整備します。社会的な混乱をさけるため、平時から、市民への啓発や情報提供などにも取り組みますが、成果を数値で表すことは困難です。(最終目標と目標年度)関係機関との協力・連携の強化 必要となる備蓄品の確保・補充	—	新型インフルエンザ等感染症による市民の感染を最小限に抑えるとともに、社会的な混乱を避けるため、医療体制や相談体制の整備、市民への啓発や情報提供などを行う		

活動計画	どうやって目的を達成するか	新型インフルエンザ等感染症発生時に備え、新型インフルエンザ等医療対策専門部会の開催、保健所・各区役所との連携を図り、医療体制ならびに相談体制の強化・充実に努めます。また、これらの体制を維持するために、必要となる医療資器材の在庫状況を把握し、必要量の備蓄に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	関係機関との協力・連携の強化、医療体制の再整備 平時から、感染症情報ネットワーク等を通じて情報提供を行い、連携を強化します。また、医療体制を再整備する上で必要な備蓄品の見直し、補充を行います。	—	関係機関との協力・連携の強化 必要となる備蓄品の確保・補充		
	市民への啓発や情報提供の継続実施 新型インフルエンザを始めとした様々な感染症から、市民への感染を最小限に抑えるとともに、社会的な混乱を避けるため、市政だより、新聞、テレビ等の様々な媒体を通じて、市民に対する啓発や情報提供を行います。	25 回	20 回		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

事業概要					担当局	保健福祉局
					担当課	生活衛生課
					課長名	小田
事業名	食中毒予防総合対策事業				施策番号	
					Ⅱ - 1 - (2) - ③	
事業概要	食中毒発生時の迅速な原因究明による健康被害の拡大防止や流通食品の汚染実態調査等により、食中毒の総合的な予防対策を実施します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	事業費	27年度当初予算額 1,805 千円	27年度執行額 千円	(事業費備考)		目安の金額 7,650 千円

【Action】改善		
課題	H25年度の 評価結果 を受けて の課題 より経済性・効率性の高い啓発方法等を検討し、低コスト化を図る必要があります。	見直し内容 啓発や検査に係る費用を見直し、経費の効率的運用を図ることとしました。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 食品等事業者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 保健所の食品等事業者に対する指導、衛生講習会等の実施を通じて、食品を加工・調理・提供する側の衛生意識の向上を図り、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、市民の健康の保護に繋がります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 食品等事業者の衛生意識の向上 食品等事業者に対する保健所の指導、衛生講習会等の実施を通じて、食品を加工・調理・提供する側の衛生意識の向上を図り、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、市民の健康の保護に繋がります。 (最終目標と目標年度) 食品等事業者の衛生意識の向上を図ります。(平成30年度)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 27年度目標 衛生講習会や監視指導等を行いました。 食品等事業者の衛生意識の向上を図ります。	27年度実績(達成率)		成果の状況 評価理由

活動計画	どうやって 目的を達成するか 食品等事業者を対象とした衛生講習会を開催します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 食品等事業者対象講習会への参加者数 食中毒の発生を防ぐため、食品等事業者における自主的な衛生管理向上を図る講習会を実施します。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 27年度目標 25年度の目標水準(6,100人)を維持	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	高齢者支援課		
		課長名	金井		
事業概要		施策番号			
事業名	年長者研修大学校及び北九州穴生ドーム運営事業				Ⅱ - 2 - (1) - ①
事業概要	年長者研修大学校(周望学舎・穴生学舎)及び北九州穴生ドーム、並びに生涯現役夢追塾の運営を行います。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人
	153,885 千円	千円		4,825 千円	係長 0.20 人 職員 0.30 人
					(人件費備考)

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 多くの高齢者が利用し、高齢者の生きがいづくりや仲間づくり、地域活動、ボランティア活動等の促進につながる運営を行う必要があります。	見直し内容 募集PRの強化や講座の充実を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	高齢者(概ね60歳以上)	教養、健康、趣味、レクリエーション等の生きがいづくりや健康づくりを促進するとともに、地域活動を担う高齢者の人材育成を図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	修了生の地域活動への参加状況	41.9 %	前年度比増		
	教養、健康等の講座を通じた高齢者の生きがいづくりや仲間づくりを進めるとともに、地域活動の講座を通じたボランティア活動等の促進を目指します。				
	(最終目標と目標年度) 前年度比増加(毎年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか 高齢者の生きがいづくり、健康づくり、地域活動を担う人材育成のためには、当事業は重要であると考えています。今後とも、講座内容等を適宜見直していくなど、事業の目的に沿った運営を図っていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)
	延べ利用者数	74,568 人	前年度比増	
	年長者研修大学校については、研修コース、利用者数だけでなく、ボランティア、同好会活動等の利用者も加えることにより、高齢者の生きがいづくりや健康づくり、人材育成の総合的な目安としています。			
	ボランティア活動による延べ利用者数	11,499 人	前年度比増	
	年長者研修大学校については、地域活動を担う高齢者の育成に関する指標として、利用状況の中でもボランティア活動による利用者数を目安としています。			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理 【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	保健福祉局	
		担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課	
事業名 地域包括支援センター運営事業		課長名	清田	
		施策番号		
事業概要 地域包括支援センターは、高齢者の保健・医療・福祉の総合相談窓口です。高齢者が元気な状態から要介護状態となっても住み慣れた地域での生活を継続していくために、地域における高齢者の実態を把握し、早期に必要なサービスにつなぐなど、地域全体を包括的にケアしていくためのネットワークの拠点として介護保険法により位置づけられた施設です。 本市では、高齢者人口や業務量などを総合的に考え、区役所、出張所に集中的に地域包括支援センター及びバックアップ機能としての統括支援センターを配置する一方、市民センターに巡回訪問するなどのアウトリーチ機能を強化し、効果的・効率的な運営を行います。		事業手法		
		<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	
	974,528 千円	千円	人件費	目金の金額
				課長 0.50 人
				係長 1.00 人
				職員 2.20 人
				(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 高齢者が増加する状況においても、地域包括支援センターがさまざまな相談に迅速で適切に対応するため、体制作りや機能確保のための適宜見直しが必要と考えます。	見直し内容	地域包括支援センターを中心に、保健・医療・福祉・地域関係者の連携を強化し、身近なところで気軽に相談できる体制づくりを進めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 地域包括支援センターにおいて、高齢者の権利擁護・虐待防止、認知症対策や介護予防などの課題に迅速で適切に対応し、高齢者が地域で安心して生活できる状態にします。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 地域包括支援センターの利用時の職員対応に満足している在宅高齢者の割合 高齢者が地域で安心して生活できているかを「北九州市高齢者等実態調査」の「地域包括支援センターの利用時の職員対応に満足している在宅高齢者の割合」を指標として設定します。 (最終目標と目標年度) 81.1%(平成25年度末高齢者実態調査結果を維持)(平成28年度)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 81.1% (平成25年度末の高齢者実態調査による)	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			81.1%(平成25年度末高齢者実態調査結果を維持)		

活動計画	どうやって 高齢者が地域で安心して生活できるよう、地域包括支援センターの支援体制の整備や相談機能の強化を推進し、高齢者権利擁護・虐待防止、認知症対策や介護予防などの課題に迅速・適切に対応します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 地域における啓発活動 民生委員児童委員地区協議会や自治連合会等に地域包括支援センターの職員が出向き、地域とのネットワークの構築を進めます。 地域包括支援センター相談件数 地域包括支援センターの相談件数及び相談内容等状況を分析することで、地域包括支援センターの業務内容や対応状況等を把握し、相談体制の強化に努めます。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 20,435 人 179,974 件	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			23,000 人		
			平成26年度実績人数を維持		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	保健福祉局				
		担当課	高齢者支援課				
事業名 高齢者住宅等安心確保事業		課長名	金井				
		施策番号			Ⅱ - 2 - (1) - ③		
事業概要		事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()					
ふれあいむら市営住宅や高齢者向け優良賃貸住宅に入居する高齢者に対し、生活援助員を派遣し、入居者の安全かつ快適な生活環境を確保します。							
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.01 人
		24,600 千円	千円		1,740 千円	係長	0.05 人
						職員	0.15 人
							(人件費備考)

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 当該住宅内で、生活相談・安否確認・一時的な家事援助・緊急時の対応・要介護時の連絡調整を行うことにより、入居者が住み慣れた地域で安心して生活が営めているものと考えています。	見直し内容 ひきつづき、入居者の安全かつ快適な生活環境を確保します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) ふれあいむら市営住宅や高齢者向け優良賃貸住宅(30戸以上)に入居する高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 生活援助員が、生活相談や定期的な安否確認などの各種サービスを提供するとともに、緊急通報システムによる緊急対応を行うなどにより、安全かつ快適な在宅生活を確保します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 入居者の快適な生活の確保	上段:25年度実績 下段:26年度実績 —	27年度目標 生活援助員を派遣することで、入居者の快適な生活を確保します。	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	住宅計画課が高齢者優良賃貸住宅として決定した対象住戸に援助員を派遣し、見守りなどのサービスを提供することで、入居者の安全かつ快適な在宅生活を確保しています。				
	(最終目標と目標年度)生活援助員を派遣することで、入居者の快適な生活を確保します。				

活動計画	どうやって目的を達成するか ふれあいむら市営住宅160戸、高齢者向け優良賃貸住宅162戸で高齢者住宅の安心確保事業を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	-	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 対象戸数	上段:25年度実績 下段:26年度実績 322 戸	27年度目標 352 戸	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	ふれあいむら市営住宅及び高齢者向け優良賃貸住宅に、高齢者の安否確認や生活相談等を行う生活援助員を派遣し、高齢者の安心を確保します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局 保健福祉局					
		担当課 介護保険課					
		課長名 中山					
事業概要		施策番号					
事業名	介護サービス等給付費(介護保険サービスの提供(在宅サービスの提供))						
		II - 2 - (1) - ③					
事業概要	高齢者が住み慣れた地域で、能力に応じて自立した日常生活を営むことが出来るよう、訪問介護・通所介護などの在宅サービス・地域密着型サービスの提供を行います。						
		<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()					
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.06 人	(人件費備考)
	41,840,092 千円	千円			156,440 千円	係長 3.70 人 職員 14.30 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	引き続き、高齢化の進展を注視しながら介護が必要になってもホームヘルプサービスなどの介護保険サービスが利用できるような支援を行っていく必要があります。	見直し内容 平成27年度～平成29年度を第6期介護保険事業計画期間とし、計画に沿った支援を行っていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	65歳以上の高齢者	今後も高齢化の進展が予想される中、高齢者が介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるよう介護保険サービスを提供していきます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	在宅サービスの利用人数 介護が必要な人にホームヘルプサービスやデイサービスなどの在宅サービスが安定的に供給されるよう、引き続き取り組んでいきます。 ※最終目標人数の減少は、予防給付(訪問・通所・支援)の地域支援事業への移行によるもの (最終目標と目標年度) 30,799人(H29年度)	31,732 人	33,629 人		

活動計画	どうやって目的を達成するか	介護を必要とする人に適切なサービスが提供されるよう取り組みます。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	介護給付の適正実施	実施済	介護給付の適正実施		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要					担当局	保健福祉局
					担当課	認知症対策室
					課長名	金井
事業名	認知症啓発・早期発見推進事業				施策番号	
					II - 2 - (1) - ④	
事業概要	「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」の実現のため、認知症に対する理解を深めるための啓発促進事業を行うとともに軽度認知障害対策事業を実施し、認知症の早期発見につながる施策を実施します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人
		11,300 千円	千円		3,075 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人

【Action】改善		
課題	H25年度の認知症予防と脳の健康度テストの参加人数については、順調に増加しているが、本市におけるMCIの人の状況や、他の予防事業との役割分担など、事業のあり方も含め、内容の検討が必要です。	見直し内容 平成27年度に事業のあり方や事業内容について検証を行い、対象者にとって真に必要な事業とする。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」を実現する。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	認知症の人の地域生活の推進 保健、医療、福祉、地域社会が連携・協働しながら、「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」を実現します。 (最終目標と目標年度)「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」の実現 目標年度なし	認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち	「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」の実現		

活動計画	どうやって目的を達成するか 認知症予防の話と脳の健康度テストについては、引き続き市民の方の参加の機会の確保に努めます。また、認知症啓発月間街頭啓発活動については、認知症についての啓発をすすめるために、今まで参加していなかった団体に参加していただけるよう、参加を働きかけます。市民の方の認知症予防に対する理解が進み、予防活動の広がりを図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	街頭啓発活動参加団体数 地域社会での取り組みを推進するため、街頭啓発活動に今まで参加していなかった団体に参加を働きかけます。	14 団体	平成24年度の水準より増加 団体		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	認知症対策室		
		課長名	金井		
事業概要					
事業名	認知症高齢者等安全確保事業	施策番号			
		Ⅱ - 2 - (1) - ④			
事業概要	認知症による徘徊行動により行方不明となった高齢者の早期発見・早期保護を図るため、「徘徊高齢者等SOSネットワークシステム」の運営や、一時保護施設の確保、GPSを活用した位置探索サービスの提供により、認知症高齢者の安全確保を図ります。	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他		
			()		
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)		
	3,300 千円	千円	人件費	目安の金額	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人
			3,075 千円	(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 認知症高齢者が徘徊行動等により行方不明となった場合の早期発見・早期保護のための体制の充実が課題となっています。	見直し内容	SOSネットワークの体制をより充実させたものとし、また、位置探索サービスのより一層の普及を目指す。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 認知症高齢者とその家族	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 認知症高齢者が徘徊行動により行方不明になっても、早期発見・早期保護を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	認知症高齢者の早期発見・早期保護体制の維持	—			
	認知症高齢者が徘徊行動により行方不明になった際に、早期発見・早期保護を図ります。		—		
	(最終目標と目標年度)認知症高齢者の早期発見・早期保護体制の維持 目標年度なし				

活動計画	どうやって目的を達成するか 徘徊高齢者等SOSネットワークの登録意義などをPRし、協力者の増加を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	徘徊高齢者等SOSネットワークのメール配信協力者数	1,140 人			
	徘徊高齢者等SOSネットワークのメール配信協力者数を増加させることにより、高齢者の見守り体制を強化します。		1,100 人		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局					
		担当課	障害福祉課					
		課長名	安藤					
事業概要								
事業名	障害者相談支援事業	施策番号						
		Ⅱ - 2 - (2) - ①						
事業概要	(1)障害者基幹相談支援センターを設置し、よろず相談窓口として家庭訪問を含む相談支援を行うとともに、併せて障害者虐待防止センターの機能を持たせて、虐待に関する通報の受理や養護者への指導、啓発などを行います。 (2)総合療育センター地域支援室に障害児相談支援の統括者を配置し、適切な機関・サービスにつなげる支援を実施します。 (3)障害者虐待相談員(嘱託)を配置し、虐待に関する初動対応や事実確認などを行います。 (4)障害者基幹相談支援センターに「総合支援コーディネーター」を配置して、関係機関の協力体制整備・充実を図ります。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他		
						()		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.03 人	(人件費備考)
		122,502 千円	千円			2,845 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、今後は、より効率的な相談支援体制を強化していく必要がある。	見直し内容	障害者のさまざまな課題に、迅速かつ適切に対応できるよう相談業務のレベルアップと体制の強化を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 障害者障害者の家族、市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 家族や本人から様々な相談を受付ける「よろず相談窓口」であり、相談者の自宅に向くなど丁寧な相談支援方法により、障害者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるように支援します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	障害者基幹相談支援センターの相談件数 障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにするため、障害者基幹相談支援センターが障害者やその家族等からの相談に応じ、必要な支援を行います。 (最終目標と目標年度) 平成29年度 43,699件	23,484 件	平成26年度の水準より増加		

活動計画	どうやって目的を達成するか 障害者基幹相談支援センターを設置し、よろず相談窓口として家庭訪問を含む相談支援を行うとともに、併せて障害者虐待防止センターの機能を持たせて、虐待に関する通報の受理や養護者への指導、啓発などを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標
	自立支援協議会における研修会等の実施回数 支援機関職員等を対象にした研修会等を実施し、障害者支援の資質向上や障害者基幹相談支援センターを含めたネットワークの構築・強化に努めます。	27 回	前年度並み

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	保健福祉局
		担当課	障害福祉課
		課長名	坂元
事業名	地域生活移行促進事業		施策番号
			II - 2 - (2) - ①
事業概要	入所施設、在宅(介護者との生活)等から地域生活への移行を希望する障害のある人への支援を行うため、地域での生活を体験する機会を提供する事業者への助成等を行います。		事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費 27年度当初予算額 27年度執行額 8,223 千円 千円	(事業費備考) 人件費 1,054 千円	課長 0.01 人 係長 0.02 人 職員 0.10 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 長年、入所施設で生活されている障害のある方の地域生活への移行については、生活環境の変化に伴うパニックの発生や夜間介助体制への不安などが想定されます。地域移行を促進するには、こうした不安解消への対応と生活基盤となるグループホーム等のさらなる充実が必要です。	見直し内容	障害のある方の地域移行に向けた環境変化のスムーズな適応(パニック軽減)や不安解消等を図るため、地域生活体験事業の継続実施、事業費の維持が必要です。また、地域生活での受け皿となるグループホーム等の充実も必要のため、初度設備費補助の継続します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 施設入所者等のうち地域生活への移行を希望される方	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の趣旨である「障害の有無にかかわらず国民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現」を目指して、施設入所者等のうち地域生活への移行を希望される方の移行を促進します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 生涯を通じた支援体制の構築 障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。 (最終目標と目標年度)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 27年度目標	生涯を通じた支援体制の構築	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	入所施設からの地域生活への移行者数 入所施設利用者のうち、単身生活やグループホーム、地域での生活に移行した人の数を増やすことで、地域移行を進めます。 (最終目標と目標年度)前年度比増 平成27年度	263 人 前年度比増			

活動計画	どうやって目的を達成するか グループホームの充実を図るため、グループホーム助成事業を実施します。また、長期間施設で生活する障害者等に地域での生活を体験する機会を提供するため、地域生活移行体験事業(補助金)を実施します。また、関連事業としてグループホームの体験利用(法定給付)や、グループホーム利用者(障害者)に対する家賃補助(法定給付、H23.10より)を実施するとともに、相談支援事業により、障害者の円滑な地域移行へのサポートや地域生活への定着を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) グループホーム助成事業件数 グループホーム助成事業の実績です。民間事業者(法人)による、グループホームの整備(居住の場が増加)により、障害者の地域生活への移行の可能性が高まることとなりますので、事業者への支援が必要と考えます。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 27年度目標	13 件 前年度比増	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	保健福祉局	
						担当課	障害福祉課	
						課長名	末吉	
事業名	総合療育センター再整備事業					施策番号		
						Ⅱ - 2 - (2) - ①		
事業概要	施設の老朽化や障害児・者のニーズの多様化、拡大等に対応するため、北九州市立総合療育センターを再整備します。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額		課長 0.20人	(人件費備考)
		170,800 千円	千円		7,300 千円		係長 0.20人 職員 0.40人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成25年度に作成した基本計画を踏まえて、平成26年度は、より具体的な基本設計を実施しました。今後再整備を行うためには、これを踏まえて実施設計を行う必要があります。	見直し内容
			基本設計を踏まえ実施設計を行い、再整備を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	新北九州市立総合療育センター	施設の老朽化や障害児・者のニーズの多様化、拡大化等の課題に対応するため、北九州市立総合療育センターの建替えを行います。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	新北九州市立総合療育センターの開所	-	単年度目標設定なし		
	施設の老朽化等に対応するため、建替えを行うこととし、平成30年度の新北九州市立総合療育センターの開所を目指します。				
	(最終目標と目標年度) 平成30年度 開所				

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成30年度の開所に向けて、実施設計を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)
	新総合療育センターの実施設計の実施	基本計画の作成	実施設計の実施	
	平成26年度に作成する基本設計に基づき、実施設計を行います。			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要					担当局	保健福祉局
					担当課	障害者就労支援室
					室長名	坂元
事業名	障害者就労支援事業				施策番号	
					II - 2 - (2) - ②	
事業概要	障害者しごとサポートセンターを拠点に、障害者本人の能力や特性に応じたきめ細かな対応を行うとともに、新たな職場開拓や企業の意識啓発及び就労移行支援に対する効果的な支援への取組みを通じて、障害者の雇用促進を目指します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
						()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目金の金額	課長 0.03 人
		40,544 千円	千円		3,095 千円	係長 0.20 人 職員 0.10 人

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 今後、精神障害者の雇用義務化を含む法定雇用率の引上げが平成30年度に予定されており、就業支援や職場定着支援など、障害者のみならず雇用主からのニーズも高まっています。また、平成24年度と25年度を比較した際、総相談件数が1,600件増加しており、就労にかかる支援の他、生活や医療等に関する支援・関係機関へのつながりが必要な件数が増加しています。これらの状況に対応するために、一時相談所としての体制の強化が必要となっています。	見直し内容 障害者しごとサポートセンターを拠点とした体制を継続し、障害者の就職支援だけでなく、生活・医療等の支援が必要なケースへの関係機関との連携強化や、職場定着支援を継続により、市民ニーズに応えます。また、相談者への支援にとどまらず、特別支援学校生やその保護者及び就労移行支援事業所利用者を対象とした企業見学会など各種企画を実施し、支援対象者への早期就労支援体制の構築を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 就労を希望する障害者とその支援者、特別支援学校生とその保護者、および雇用主	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 障害者しごとサポートセンターを拠点に、障害者本人の能力や特性に応じたきめ細かな対応を行うとともに、新たな職場開拓や企業(雇用主)の意識啓発、および就労移行支援事業所等が実施する就労支援に対する効果的な支援への取組みを通じて、障害者の雇用促進を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 障害者しごとサポートセンター利用者の就職人数 支援対象となる障害者が、職業準備訓練や職場実習あっせん、職場定着支援などの障害者しごとサポートセンター提供のサービス利用者を通じて、実際に企業に就職した数 (最終目標と目標年度) 平成29年度:90人	上段:25年度実績 下段:26年度実績 90 人	27年度目標 90人以上	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	福祉施設から一般就労への移行人数 障害者の就労を目指す就労移行支援事業所等の利用者が、実際に企業へ就職した数 (最終目標と目標年度) 平成29年度:58人	110 人	58人以上		

活動計画	障害者が地域でいきいきと自立した生活を送れるよう、「社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会」に運営委託している障害者しごとサポートセンターを拠点として、就職を希望する障害者に対し、指導や助言、職業訓練や職場実習の調整・あっせん、能力や適性に応じた職業紹介の調整などの支援を行うとともに、就職後の職場定着支援や新たな職場の開拓を行うほか、企業の障害者雇用に対する理解の進展を図ります	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 相談・支援件数 窓口に来所した登録者の相談受付や、会社面接や区役所・ハローワーク等公共機関への動向、家庭訪問、障害者が就職した会社を訪問して定着支援などの件数	上段:25年度実績 下段:26年度実績 7,355 件	27年度目標 平成26年度の水準より増加	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	職業準備訓練および職場実習のあっせん件数 継続および新規でしごとサポートセンターに登録している障害者に、職業準備訓練や職場実習をあっせんした件数	43 件	平成26年度の水準より増加		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	保健福祉局	
						担当課	障害福祉課	
						課長名	坂元	
事業名	地域生活移行促進事業					施策番号		
						II - 2 - (2) - ②		
事業概要	入所施設、在宅(介護者との生活)等から地域生活への移行を希望する障害のある人への支援を行うため、地域での生活を体験する機会を提供する事業者への助成等を行います。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額	課長 0.01人 係長 0.02人 職員 0.10人
		8,223 千円	千円				1,054 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	長年、入所施設で生活されている障害のある方の地域生活への移行については、生活環境の変化に伴うパニックの発生や夜間介助体制への不安などが想定されます。地域移行を促進するには、こうした不安解消への対応と生活基盤となるグループホーム等のさらなる充実が必要です。	見直し内容
			障害のある方の地域移行に向けた環境変化のスムーズな適応(パニック軽減)や不安解消等を図るため、地域生活体験事業の継続実施、事業費の維持が必要です。また、地域生活での受け皿となるグループホーム等の充実も必要のため、初度設備費補助の継続します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 施設入所者等のうち地域生活への移行を希望される方	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の趣旨である「障害の有無にかかわらず国民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現」を目指して、施設入所者等のうち地域生活への移行を希望される方の移行を促進します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 生涯を通じた支援体制の構築 障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。 (最終目標と目標年度)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 27年度目標		27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	入所施設からの地域生活への移行者数 入所施設利用者のうち、単身生活やグループホーム、地域での生活に移行した人の数を増やすことで、地域移行を進めます。 (最終目標と目標年度)前年度比増 平成27年度	263 人	前年度比増		

活動計画	どうやって目的を達成するか グループホームの充実を図るため、グループホーム助成事業を実施します。また、長期間施設で生活する障害者等に地域での生活を体験する機会を提供するため、地域生活移行体験事業(補助金)を実施します。また、関連事業としてグループホームの体験利用(法定給付)や、グループホーム利用者(障害者)に対する家賃補助(法定給付、H23.10より)を実施するとともに、相談支援事業により、障害者の円滑な地域移行へのサポートや地域生活への定着を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) グループホーム助成事業件数 グループホーム助成事業の実績です。民間事業者(法人)による、グループホームの整備(居住の場が増加)により、障害者の地域生活への移行の可能性が高まることとなりますので、事業者への支援が必要と考えます。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 27年度目標	27年度実績(達成率)	
		13 件	前年度比増	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	保健福祉局
						担当課	障害福祉課
						課長名	坂元
事業名	障害者スポーツ振興事業					施策番号	
						Ⅱ - 2 - (2) - ③	
事業概要	障害者のスポーツ大会や、各種スポーツ教室等を開催、障害者団体等によるスポーツ大会等への支援を行います。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
		52,794 千円	千円			1,063 千円	(人件費備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員・ボランティアも関わっています。

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	当事業は施策に対する有効性は高く、「社会参加の促進」を図っていく上で重要な事業です。今後も、より参加しやすい大会や教室になるよう工夫していく必要があります。	見直し内容
			今後も、さらなる社会参加の促進に向けて事業を継続し、より参加しやすい大会や教室になるよう工夫します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	障害のある方	スポーツを通じた社会参加の促進			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	障害者スポーツ教室等参加者数	4,822 人	平成26年度の水準より増加		
	教室参加者の特性を十分に考慮し、安全かつ安心して参加できる教室になるように努めます。 (最終目標と目標年度) 前年度比増 毎年度				
	北九州市障害者スポーツ大会参加者数	542 人	平成26年度の水準より増加		
大会参加者が、安全かつ安心して参加できる大会となるように努めます。 (最終目標と目標年度) 前年度比増 毎年度					

活動計画	どうやって目的を達成するか	北九州市障害者スポーツ大会や各種の障害者スポーツ教室を開催するとともに、障害者団体等によるスポーツ大会の開催や参加への支援を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	障害者スポーツ教室等開催回数	105 回	125 回		
	教室参加者の特性を十分に考慮し、安全かつ安心して参加できるスポーツ教室を開催します。				
	北九州市障害者スポーツ大会開催	開催	開催		
障害のある方が、安全かつ安心して参加できる大会を開催します。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	障害福祉課		
		課長名	坂元		
事業概要					
事業名	障害者芸術文化活動等推進事業	施策番号			
		Ⅱ - 2 - (2) - ③			
事業概要	障害のある方の芸術・文化活動を推進するため、「障害者芸術祭」などの芸術・文化活動の発表の場を設けるとともに、家に閉じこもりがちになる障害者が地域社会へ一歩踏み出し、社会の一員として自立するための支援事業を行います。	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他		
			()		
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)		
	7,195 千円	千円	人件費	目安の金額	課長 0.01 人 係長 0.04 人 職員 0.07 人
			1,063 千円	(人件費備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員・ボランティアも関わっています。	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	当事業は施策に対する有効性は高く「社会参加の促進」を図っていく上で重要な事業です。今後も目標達成に向けて、障害のある方が社会で活動するための支援を充実させていく必要があります。 今後も目標達成に向けて、参加者のニーズを踏まえ、障害のある方の活動を支援する取り組みを充実させます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	障害のある方	障害のある方の社会参加の促進			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	障害者芸術祭 出展者数	109 点	平成26年度の水準より増加		
	多くの障害のある方の芸術・文化活動の発表の場となるよう努めます。 (最終目標と目標年度)前年度比増 毎年度				
	障害者芸術祭 来場者数	1,172 人	平成26年度の水準より増加		
障害の有無にかかわらず、多くの方が来場するイベントとなるよう努めます。 (最終目標と目標年度)前年度比増 毎年度					

活動計画	どうやって目的を達成するか 障害のある方の芸術・文化活動の発表の場を設け、社会の一員として自立するための支援に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	障害者芸術祭の開催	開催	開催		
	障害のある方の芸術・文化活動の発表の場として開催します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	保健福祉局						
		担当課	健康推進課						
		課長名	河端						
事業名	健康診査・健康診査受診促進事業	施策番号							
		Ⅱ - 2 - (3) - ①							
事業概要	がんなどの生活習慣病予防対策の一環として、これらの疾患の疑いのある者や危険因子を持つ者をスクリーニングするため、各種がん検診等を実施します。 また、健康診査のチラシの配布、啓発イベントなどのPR活動を通じて、健康診査についての知識を普及するとともに、健康診査受診の動機づけを行うことで受診率の向上を図ります。	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他							
		()							
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長	0.10 人	
		526,719 千円	千円			11,650 千円	係長	0.30 人	
								職員	1.00 人
								(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 がん検診については、子宮頸がん・肺がんは減少しましたが、胃がん・大腸がん・乳がんの受診者数は増加しました。しかし、依然として全国と比べると低い受診率のため、引き続き低コスト高効率でより効果的な受診促進が必要です。	見直し内容	H26年度に引き続き国庫補助を利用し、特定の年齢の市民に対して大腸がん・乳がん・子宮頸がん検診の無料クーポンの配布や、H25年度の乳がん・子宮頸がんの無料クーポン送付者の未使用者に対する再送付、既受診者に対する個別勧奨を実施することで受診活動の動機付け、定着化を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 健やかに心豊かに生活できるよう、がんをはじめとする生活習慣病の予防に取り組みます。そのため、がん検診など各種検診を実施し、これらの疾患の早期発見、早期治療につなげます。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少 各種がん検診等の実施により、市民のがんによる死亡率減少を目指します。(10万人対年齢調整死亡数) (注)数値は健康推進課調べ(1年遅れ) (最終目標と目標年度)平成29年度 74.4人	94.5 人	平成26年度比減		

活動計画	どうやって目的を達成するか 北九州市医師会への委託により、がん検診や若者健診、骨粗しょう症検診など各種検診を1,000円以下で実施します。また、一定年齢の市民に無料で子宮頸がん・乳がん・大腸がん検診を受診できる「がん検診無料クーポン券」を配布します。さらに、企業・ボランティア等との連携により継続的に検診の普及啓発活動を行い、がん検診受診者の増加を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標
	がん検診受診者の増加 職域の受診率を把握する仕組みがないため、市が実施する5大がん(胃がん・大腸がん・肺がん・子宮頸がん・乳がん)の検診受診者数の増加を目標にします。	84,851 人	平成26年度比増

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要					担当局	保健福祉局
					担当課	健康推進課
					課長名	河端
事業名	保健事業(特定健診・特定保健指導)				施策番号	
					II - 2 - (3) - ①	
事業概要	「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づいて、40歳～74歳の北九州市国民健康保険被保険者を対象にメタボリックシンドロームに着目した生活習慣病予防のための特定健診を実施します。また、健診の結果、特定保健指導やその他の保健指導等適切な事後フォローを実施します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考) うち特定健診・特定保健指導 予算額 691,946千円	人件費	目安の金額 課長 0.10人 係長 1.00人 職員 4.00人 41,150 千円 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 特定健診の受診率は順調に上昇していますが、まだ低い水準です。未受診者のなかには、生活習慣病予備群・生活習慣病該当者で、適切な医療受診や保健指導につながらない方も多く考えられます。また健診後、特定保健指導の対象とならなかった方の中にも、血圧・血糖・脂質異常のコントロール不良の方や、必要な治療を受けていない方が多い状況です。生活習慣病予防及び重症化予防の推進には、特定健診受診率のさらなる向上と、健診後の事後フォローの充実が必要であると考えます。	見直し内容	受診率の向上に向けて、未受診者に対するハガキによる受診案内の送付等、各種の受診勧奨事業を継続して実施するとともに、新たな受診勧奨活動に取り組みます。そして、受診後の適切なフォロー体制をさらに充実させることで受診促進と生活習慣病予防及び重症化予防の推進を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 40歳～74歳の北九州市国民健康保険被保険者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 早期に受診し、生活習慣病予防・重症化予防に取り組むことによって、元気で安心して地域で生活できることをめざします。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 高血圧症該当者(重度)の減少 北九州市国民健康保険の特定健診受診者における高血圧症該当者(収縮期血圧180mmHg以上又は拡張期血圧110mmHg以上)の割合が減少することを旨とします (最終目標と目標年度) 平成29年度 0.8%	上段:25年度実績 下段:26年度実績 0.9 %	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			前年度比減		
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 血糖コントロール不良者(重度)の減少 北九州市国民健康保険の特定健診受診者における血糖コントロール不良者(HbA1c8.0%以上(JDS値))の割合が減少することを旨とします (最終目標と目標年度) 平成29年度 1.2%	上段:25年度実績 下段:26年度実績 1.17 %	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			前年度比減		

活動計画	特定健診受診率の向上に向けて各種の受診勧奨事業を継続して実施するとともに、受診後の適切なフォロー体制を充実させることで受診促進を図ります。 その一環として、健診後の特定保健指導の実施にくわえて、特定保健指導非対象者にも保健指導を行います。さらに、健診結果により、CKD(慢性腎臓病)予防に向けた、かかりつけ医・腎専門医との予防連携システムを活用し、重症化予防に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 北九州市国民健康保険における特定健診の受診率の上昇 特定健診受診率について、「第二期特定健康診査等実施計画」で示した目標値は45%ですが、実績を勘案し、前年度実績から2ポイント以上上昇することを旨とします。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 32.5 %	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			45 %		
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 北九州市国民健康保険における特定保健指導の実施率 実施に半年以上を要する特定保健指導は年度の区切りがあいまいなため、各年度の実施率はおよそその目安となります。実施率目標値は、「第二期特定健康診査等実施計画」で示した平成27年度の目標値45%としています。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 30.3 %	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			45 %		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	保健福祉局
		担当課	健康推進課
事業名 歯科保健の推進		課長名	古賀
		施策番号 II - 2 - (3) - ②	
事業概要 歯と口の健康は、美味しい食事や家族や仲間との会話を楽しむ等、生活の質を高めるための重要な要素です。乳幼児期から高齢者まで生涯を通じた歯と口の健康づくりの一環として、歯科疾患の早期発見・早期対応を目的とした歯科健診や情報提供・普及啓発を実施することにより歯と口の健康づくりの推進を図ります。		<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
		(人件費備考)	
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
	112,453 千円	千円	目安の金額 課長 0.30 人 係長 1.15 人 職員 1.15 人 23,575 千円

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 3歳児のむし歯のある者の割合は、徐々に減少しているものの、他都市と比較しても高いのが現状です。幼児に対する予防対策や施策実現の基盤ともなる歯科保健に関する指導や普及啓発等のさらなる推進が必要です。	見直し内容	乳幼児期における歯や口腔の異常や歯科疾患のリスクを早期発見し、歯と口の健康づくりを行っていくため市民へのPRを推進し、歯科健康診査受診率率の向上に努めます。今後も目標の達成に向けて着実に取組みを進めるため、事業費は現状を維持し引き続き事業を行います。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 歯と口の健康は市民の健康寿命を延ばすことに役立つだけでなく、美味しい食事や家族や仲間との会話を楽しむ等による市民の生きる力をはぐくみ、生活の質の向上を図るための重要な要素です。生涯を通じた歯と口の健康づくりの一環として、乳幼児期のむし歯予防により歯と口の健康づくりの推進を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 3歳児でむし歯のない者の割合 乳幼児期における歯や口腔の異常や歯科疾患のリスクを早期発見し、適切な指導を行うために1歳6か月児・3歳児を対象に歯科健康診査を実施します。 (最終目標と目標年度) 前年度比増(毎年度)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 72.9 %	27年度目標 平成26年度比増	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
活動計画	どうやって目的を達成するか ライフステージに応じた歯科検診、健康診査、予防措置の実施及び健康教育、保健指導、情報提供を行います。また、関係団体等と連携し、全身疾患との関連について周知を図り、市民の口腔保健に対する意識の向上を推進します。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 57.7 %	27年度目標 平成26年度比増	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由

【Check】評価(分析)					
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点				
活動指標	1歳6か月児・3歳児歯科健康診査を受診した者の割合 乳幼児期における歯や口腔の異常や歯科疾患のリスクを早期発見し、適切な指導を行うために1歳6か月児・3歳児を対象に歯科健康診査を実施します。また歯科医師会等の関係団体の協力を得ながらPR方法を具体的に検討し受診率率の向上に努めます。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 57.7 %	27年度目標 平成26年度比増	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
「経済性」 (同成果を低コストで)	「効率性」 (同コストで高成果を)				
の分析	※民間活力導入の視点				

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要					担当局	保健福祉局
					担当課	健康推進課
					課長名	古賀
事業名	食育の推進				施策番号	
					II - 2 - (3) - ②	
事業概要	第二次北九州市食育推進計画(平成26年4月策定)の進捗管理にあたって、有識者等から意見を聴取するため、「第二次北九州市食育推進計画の推進にかかる意見交換会」を設置します。また、地域における食育推進や地域で活動する食生活改善推進員の養成を目的とした講座の開催により、食育に関する人材育成を図るとともに、北九州市食生活改善推進員協議会が実施する「ふれあい昼食交流会」への開催支援を行います。併せて、食育に関する情報発信の充実や関係団体等のネットワークづくりを進め、お互いの情報共有や相互連携・協力による食育を推進します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額 課長 0.05 人 係長 1.50 人 職員 1.50 人 (人件費備考)
	28,341 千円				26,825 千円	

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	H25年度はより多くの市民が参加しやすい場所でのイベントや街頭啓発を行うなど、若い世代や無関心層を含めた普及啓発ができました。しかし、実施の多くを職員のマンパワーで対応しており、計画・評価へ比重をかけられていないことが課題です。
見直し内容	より費用対効果を高めるために、今後も食育関係者と連携・協力しながら、より一層食育の推進に努めていきます。また、効果的な情報発信方を検討し、影響力の大きい情報媒体の活用を努めます。	

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民、食育関係者	食を通して、市民の心と身体の健康と豊かな人間性を育み、生涯にわたって生き生きと暮らすことができるように、家庭や地域、関係機関と連携して、子どもから高齢者までライフステージに応じた食育を推進し、誰もが食に関心を持って行動する社会を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	食育に関心を持っている人の割合	-	単年度目標設定なし		
	様々な食育の取組を評価するものとして、必要な指標と考えます。第二次北九州市食育推進計画の指標の中から設定しました。調査は5年に1回で、次回は平成29年度を予定。平成24年度実績は75.3%。(最終目標と目標年度) 平成30年度 90%				

活動計画	どうやって目的を達成するか 「地域食育講座」等の講座を継続的に開催し、「食」に関する人材育成に努めます。また、テーマを絞った集中的な啓発活動として、食育キャンペーンを実施します。参加者から好評を得ている「ふれあい昼食交流会」については、全校区での実施に向けて支援していきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	地域食育講座等の開催数	331 回	400 回		
	地域において「食」に関する課題等について学ぶ機会を確保するため、「地域食育講座」を継続して開催し、多くの市民が参加するよう努めます。また、食生活改善推進員の養成を図り、「健康料理普及講習会」や全校区での「ふれあい昼食交流会」開催に向けて支援していきます。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要					担当局	保健福祉局
					担当課	健康推進課
					課長名	古賀
事業名	介護予防事業(通所型・訪問型)				施策番号	
					Ⅱ - 2 - (3) - ③	
事業概要	要介護状態等となるおそれの高い二次予防事業対象者に対して、通所型介護予防事業(運動機能や口腔機能の向上教室、複合型の教室)や介護予防事業(保健師や看護師等の訪問による支援)を行います。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額 課長 0.30人 係長 0.30人 職員 0.60人
		106,870 千円				10,950 千円

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 二次予防事業参加者の事業参加後の生活機能評価は95%の参加者が「維持・改善」しており、教室のプログラム内容が有効であったと評価していますが、介護予防の観点から維持・改善した機能を、教室終了後も長く継続していけるような試みが必要です。	見直し内容	本事業を効果的・効率的に行うため、通所型介護予防事業内容を運動器の機能向上・口腔機能向上・栄養改善を複合的に実行する内容で実施回数を増やします。また、専門家が介入することで介護予防効果の高い対象者を絞り、個別支援ができる訪問型介護予防事業を充実します。なお、本事業は総合事業開始に伴い二次予防事業対象者という概念が無くなるため廃止します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 要介護状態等となるおそれの高い二次予防事業対象者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 通所型介護予防事業(運動器の機能向上や口腔機能向上、栄養改善の教室)や介護予防事業(保健師や看護師等の訪問による支援)を行うことで高齢者の生活の質の向上や介護保険制度の安定的な運営を目的とします。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合 高齢者実態調査でモニタリングします。二次予防事業の実施で介護予防が推進できれば、この割合が増加すると考えました。調査は3年ごとに行い次回は平成28年度 (最終目標と目標年度) 増加 (対平成25年度: 75.7%) 平成29年度	上段:25年度実績 下段:26年度実績 75.7 %	27年度目標 単年度目標設定なし	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	二次予防事業に参加した後の生活機能評価で維持・改善した人の割合 二次予防事業(要介護状態となるおそれの高い高齢者のための教室等)に参加した対象者の生活機能の維持・改善を指標とすることで、事業の有効性を評価できると考えました。 (最終目標と目標年度) 95.0% 平成29年度	95 %	95.0 %		

活動計画	どうやって目的を達成するか より多くの二次予防事業対象者が要介護状態になることを予防できるように、通所型介護予防事業の開催場所、開催回数を増やします。また、関係職員の研修実施等を行い、二次予防事業の質を保ち、介護予防の推進に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 通所型介護予防事業の参加者数 要介護状態となるおそれの高い高齢者に提供する通所型介護予防事業(運動器の機能向上、口腔機能向上、栄養改善の教室)に参加する二次予防事業対象者の数を増加させ介護予防を推進します。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 763 人	27年度目標 800 人	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要					担当局	保健福祉局
					担当課	健康推進課
					課長名	古賀
事業名	百万人の介護予防事業				施策番号	
					II - 2 - (3) - ③	
事業概要	市民が介護が必要となる状態を防ぐ(介護予防)とともに、健康づくりや介護予防についての正しい知識を普及・啓発するため、65歳以上の高齢者を対象に、北九州市が独自に開発した「きたきゆう体操(介護予防体操)」と「ひまわりタイチー(介護予防太極拳)」の教室を開催します。また、きたきゆう体操やひまわりタイチーを身近な地域で自主的に継続して行うとともに、いきがいつくりを進めるため、普及員の養成や自主グループの活動を支援します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額 27,100 千円	27年度執行額 千円	(事業費備考)		

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 地域で活動する普及員の登録数の伸び悩みに対して、対象者を拡大して行った結果、普及員や自主グループの登録数が順調に増加しています。引き続き、地域活動の自主化・継続化を強化していきます。	見直し内容 引き続き、既存の健康づくりや介護予防に関する地域活動従事者と普及員の融合を図り、より地域に根ざした介護予防活動の実施を推進します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 65歳以上の高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市民が身近な地域の中で自ら健康づくり及び介護予防に取り組むためのきっかけづくり、また、そのためのツールとして独自に開発した「きたきゆう体操(介護予防体操)」及び「ひまわり太極拳(介護予防太極拳)」を活用して、地域における健康づくりや介護予防の普及・啓発を行います。また、普及員の養成や自主グループ活動の支援などを通じて、介護予防の自主化・継続化の一層の促進を行い、より地域に根ざした介護予防の実施やいきがいつくりを推進します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合	上段:25年度実績 下段:26年度実績 75.7 %	27年度目標 単年度目標設定なし	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	高齢者等実態調査でモニタリングします。 住民主体の健康づくりが推進できれば、この割合が増加すると考えました。調査は3年ごとに行い次回は平成28年度 (最終目標と目標年度) 増加 (対平成25年度: 75.7%)平成29年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか 介護予防の一層の普及・啓発を図るため、引き続き「きたきゆう体操」及び「ひまわり太極拳」の教室や体験会等を開催します。また、更なる普及と介護予防の自主化・継続化のため、普及員の養成及び普及員による自主グループの形成を促します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 普及教室の参加者数(単年度・実数)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 370 人	27年度目標 430 人	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	「きたきゆう体操」及び「ひまわり太極拳」を市民に普及させることを目的として、それぞれについて教室を開催します。				
	普及員の登録者数(累計)	374 人	530 人		
	地域で活動するリーダーとなる普及員を養成し、普及活動を行ってもらうことにより、介護予防の自主化・継続化を目指します。併せて、自主グループの育成を側面的に支援します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	精神保健福祉センター		
		課長名	三井		
事業概要					
事業名	自殺対策事業				施策番号
					Ⅱ - 2 - (3) - ③
事業概要	市民への啓発活動を中心に、自殺者を減らすためのさまざまな事業を実施します。				事業手法
					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額
		25,224 千円	千円	人件費	16,475 千円
				課長 0.15 人	係長 0.95 人
				職員 0.70 人	(人件費備考)

【Action】改善		
課題	H25年度の 評価結果 を受けて の課題	自殺問題は、経済情勢、雇用問題等様々な社会的要因が関係しています。そのため、引き続き行政、民間、地域団体等との連携を強化し、総合的な対策の施策を推進する必要があると考えます。 また、国の補助等を受け、引き続き人材育成や広報啓発を強化する一方で、専門職によるハイリスク者対策も必要があると考えます。
見直し内容	前年度に引き続き、人材育成、普及啓発、相談対応、関係機関連携を進める一方で、専門職によるハイリスク者支援を実施します。	

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	自殺について正しい知識を持ち、自殺の危険を示す人や自殺に傾いた人を適切な機関・窓口等へつなぐことができる状態を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	自殺死亡率(人口10万人あたりの自殺者数)※人口動態統計	18.7人	19.7人以下		
	内閣府が定める「自殺対策大綱」に基づき、平成28年度までに平成17年度の人口10万人あたりの自殺者数(24.6人)を20%削減します。				
	(最終目標と目標年度)平成28年度 19.7人				

活動計画	どうやって目的を達成するか	自殺対策講演会、支援者向け研修、自殺予防こころの相談電話及び自死遺族支援等従来の事業を継続実施します。そのほか、地域自殺対策緊急強化基金を活用し、啓発・広報の強化、人材育成の強化を行うほか、ハイリスク者(自殺未遂者等)に対する専門的な支援を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	養成したゲートキーパーの人数	2,274 人	1,000 人		
	うつ状態にある人の早期発見・早期治療や自殺の危険性が高い人の早期発見・早期対応など、より早く自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応をとることができるよう、その中心的役割を果たす人材(ゲートキーパー)を養成します。				
	市民・関係機関等への広報・啓発活動実施回数	77 回	50 回		
	広く市民に対し自殺について正しい知識を普及・啓発すると同時に、自殺の危険を示す人や自殺に傾いた人を適切な機関・窓口等へつなぐことができるよう、関係機関との連携のもと、様々な機会や媒体を活用し、広報・啓発活動を行います。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	保健福祉局				
		担当課	健康推進課				
事業名 健康マイレージ事業		課長名	河端				
		施策番号 II - 2 - (3) - ④					
事業概要 介護予防・生活習慣改善等の取り組みや健康診査の受診等をポイント化し、そのポイントを健康グッズなどと交換することで、健康づくりの重要性を広く普及啓発するとともに、市民の自主的かつ積極的な健康づくりへの取り組みを促進します。 また、さらに身近で参加しやすい事業となるよう、地域が主体となった仕組みを展開します。		<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()					
		(人件費備考)					
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
		63,901 千円	千円			4,825 千円	係長 0.20 人 職員 0.30 人

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 参加者数、事業登録は順調に増加していますが、市民の自主的な健康づくりを促進するため、効率性を向上させつつ、更なる参加者の拡大が必要です。	見直し内容 引き続き参加者数の拡大・効率化に取り組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 40歳以上の市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 介護予防や健康づくりへの重要性を広く普及啓発し、市民の自主的かつ積極的な健康づくりへの取り組みを促進します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 自分の健康状態について「普通」「まあよい」「よい」と考えている高齢者の割合 高齢者実態調査で一般高齢者に対し、モニタリングします。「健康マイレージ」により、市民が自主的に健康づくりに取り組むことで、市民の主観的な健康観が向上すると考えました。 (最終目標と目標年度) 増加・平成29年度(対平成25年度:79.9%)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 79.9 %	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合 高齢者実態調査でモニタリングします。 住民主体の健康づくりが推進できれば、この割合が増加すると考えました。調査は3年ごとに行い次回は平成28年度 (最終目標と目標年度) 増加(対平成25年度:75.7%)・平成29年度	75.7 %	単年度目標設定なし		

活動計画	どうやって目的を達成するか 健康づくりを推進するため、介護予防・生活習慣改善等の取り組みや健康診査の受診等をポイント化し、そのポイントを健康グッズなどと交換することで、健康づくりの重要性を広く普及啓発するとともに、市民の自主的かつ積極的な健康づくりへの取り組みを促進します。 また、さらに身近で参加しやすい事業となるよう、地域が主体となった仕組みを展開します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 健康マイレージ事業参加者数 健康マイレージ事業参加者数を増加させることで、市民の自主的かつ積極的な健康づくりへの取り組みを促進させます。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 20,560 人	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			前年度比増		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	健康推進課		
		課長名	河端		
事業概要		施策番号			
事業名	市民センターを拠点とした健康づくり事業				Ⅱ - 2 - (3) - ④
事業概要	市民が主体となって、地域の健康課題について話し合い、目標の設定・計画づくり・実践・事業評価を一つのサイクルとして、まちづくり協議会、健康づくり推進員の会、食生活改善推進協議会、医師会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、保健師等の連携により健康づくりに取り組めます。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目金の金額	課長 0.10 人
	13,988 千円	千円		7,900 千円	係長 0.30 人 職員 0.50 人
					(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成29年度全まちづくり協議会(136団体)が実施することを目指して、各区役所保健福祉課が支援をしているが、校区の組織的な問題や支援する側の人材不足などで実施校区が増えない区もある。一方で全校区が実施している区が2区あり、どの区も全校区実施に向けて前向きに取り組んでいる。	見直し内容 未実施校区の現状把握を行う。継続支援のための研修を行うなど住民主体の健康づくりがさらに拡大するように努める。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 地域の特性を活かして、地域の健康づくり事業の目標を設定し、計画を立て、事業を実施します。実施結果を評価して、次年度の健康づくり事業へ活かします。このサイクルを繰り返し行うことで、身近な地域で住民が主体となって健康づくりに取り組むことを推進しています。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 「普段、自分は健康だと思う」「まあまあ健康だと思うと答えた19歳以上の市民の割合 健康づくり実態調査で19歳以上の市民をモニタリングします。「地域でGO!GO!健康づくり」により、市民が健康づくりに取り組んだり、地域の活動に参加して交流の機会が増えたりすることで、市民の主観的な健康観が向上すると考えました。調査は5年毎に行い次回は平成28年度を予定 (最終目標と目標年度) 増加 (対23年度:75.2%) 平成29年度	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合 高齢者実態調査でモニタリングします。住民主体の健康づくりが推進できれば、この割合が増加すると考えました。調査は3年ごとに行い次回は平成28年度 (最終目標と目標年度) 増加 (対平成25年度:75.7%) 平成29年度	75.7 %	単年度目標設定なし		

活動計画	どうやって目的を達成するか 「地域でGO!GO!健康づくり」の全市的な展開を推進し、地域担当保健師等による支援及び補助金の交付による支援を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 「地域でGO!GO!健康づくり」の実施まちづくり協議会数 市民が自ら話し合い、地域の健康づくりに取り組んでいく「地域でGO!GO!健康づくり」を拡充することで、市民主体の健康づくりを推進します。	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
		111 団体	121 団体		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	保健福祉局	
						担当課	介護保険課	
						課長名	中山	
事業名	介護支援ボランティア事業					施策番号		
						Ⅱ - 2 - (3) - ④		
事業概要	65歳以上の高齢者が特別養護老人ホームなどの介護保険施設等でボランティア活動を行った場合にポイントを付与し、貯まったポイントを換金又は寄付することができる事業です。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額	課長 0.08 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人
		17,400 千円	千円				3,420 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	平成26年度の目標は既に達成していますが、本事業は高齢者の介護予防・社会参加の促進を図ることとしており、引き続き介護支援ボランティア活動を推進していきます。	見直し内容
			介護支援ボランティア事業のさらなる広報活動を行うとともに、登録者たちが施設で活動できるように施設とのマッチングを積極的に行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	65歳以上の高齢者	①健康維持と介護予防、社会参加・地域貢献を通じた生きがいづくり ②介護保険施設等と地域とのつながりの深まりや、施設を利用される方の生活をより豊かにすること			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 介護支援ボランティアの登録者数 ボランティア活動を行う介護支援ボランティアの登録者数を指標とし、取り組んでいきます。 (最終目標と目標年度) 平成27年度:1700人	上段:25年度実績 下段:26年度実績 1,102 人	27年度目標 1,700 人	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか 本事業の周知のため、市政だより・冊子等記事掲載や郵送物のチラシ同封、ボランティア関連団体や高齢者福祉団体等を通じた積極的な広報活動を行い、ボランティア登録を促進します。また、介護サービス事業所に対しても積極的な広報活動を行い、ボランティア受入施設の拡充を図るとともに登録者とのマッチングを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 事業の案内・周知 介護保険の被保険者証の送付時に本事業の案内を同封するなどして周知を図ります。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 -	27年度目標 実施
			27年度実績(達成率)
			活動の状況評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局 保健福祉局
		担当課 健康推進課
		課長名 古賀
事業概要		施策番号
事業名	地域リハビリテーション活動支援事業	
		II - 2 - (3) - ④
事業概要	市民が介護が必要となる状態を防ぎ(介護予防)、健康寿命の延伸を図るために、高齢者等が地域で実施している介護予防教室等へリハビリテーション専門職を派遣し介護予防についての正しい知識や効果的な運動方法を普及・啓発するとともに、地域ケア会議等にリハビリテーション専門職が参加し自立支援の視点での助言等を行う等、介護予防の機能強化を行うことで、市民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続できることを目指します。	
		事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額 27年度執行額 (事業費備考) 千円 千円 20,700
		目安の金額 課長 0.05 人 4,575 千円 係長 0.10 人 職員 0.40 人 (人件費備考)

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 第6期介護保険制度改正に伴い、リハビリテーション専門職を活用した自立支援の取組による介護予防の機能強化を行う。	見直し内容 平成27年度 新規事業

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 65歳以上の高齢者等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 住民運営の通いの場や地域ケア会議、訪問、通所等にリハビリテーション専門職が定期的に関与することで介護予防活動の機能強化を図り、市民の主体的かつ継続的な介護予防活動を効果的に促進します。また、高齢者を年齢や心身状況で分け隔てることなく、地域住民が主体となって行う介護予防活動を広く展開することで、人と人のつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合 高齢者等実態調査で「健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがある」高齢者をモニタリングします。 住民主体の健康づくりが推進できれば、この割合が増加すると考えま(最終目標と目標年度) 増加 (対平成25年度: 75.7%) ・ 調査は3年ごとに行い次回は平成28年度	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
		—	単年度目標設定なし		
		—			

活動計画	どうやって目的を達成するか リハビリテーション専門職が住民運営の通いの場等へ訪問し、効果的な介護予防運動等の伝達を行うとともに、地域ケア会議等へ参加し自立支援の視点での助言等を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 住民運営の通いの場等への訪問件数(単年度・実数)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
		—	100 回		
	リハビリテーション専門職が地域運営の通いの場等へ訪問し、効果的な介護予防運動等の伝達を行います。	—			
	地域ケア会議等への参加回数(単年度・実数)	—	144 回		
	リハビリテーション専門職が地域ケア会議等へ参加し、自立支援の視点で生活機能の改善に向けた具体的な取組がなされるよう介護予防ケアマネジメントへの助言等を行います。	—			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局			
		担当課	人権文化推進課			
		課長名	鷹取			
事業名	事業概要				施策番号	
					II - 3 - (1) - ①	
事業概要	「人権文化のまちづくり」の実現に向けて、幅広い年齢層の市民を対象に、様々な機会を通じて、人権啓発を推進します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.70 人
		101,498 千円	千円		43,050 千円	係長 1.40 人 職員 2.80 人

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 市民が啓発事業に触れることで人権尊重の意識が高まると考えられるが、すべての市民に届く啓発は難しく、効果測定も難しい。	見直し内容 1人でも多くの市民が事業に参加したり、触れたりすることができるように手法を検討し、より経済性、効率性が高められるように努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 人権尊重の精神を正しく身に付け、人権を尊重することが日常生活の中で当たり前の行動として自然に現すことができる状態	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) すべての市民の人権が尊重される社会の実現 人権講演会をはじめ、各種事業を継続して実施し、人権問題について考える機会を数多く提供することを通じて、人権尊重の意識を高めていきます。 (最終目標と目標年度) すべての市民の人権が尊重される社会の実現 北九州市民の人権問題への関心層の割合 人権問題への関心や取組意識を高めることを目標とします。具体的には、平成27年度実施の人権問題に関する意識調査(5年ごとに実施)において、人権問題への関心層の割合が前回(平成22年度)の調査実績(59.1%)を上回ることが目標です。 (最終目標と目標年度) 前回調査比増(毎回)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 27年度目標 59.1%超	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	

活動計画	どうやって目的を達成するか ・市民への広報活動(TVCMの制作・放送) ・人権週間に伴う人権啓発行事(記念講演会、ふれあいフェスタ、作品募集等) ・福岡県同和問題啓発協議月間行事(映画会講演会、ポスター制作等) ・啓発資料の作成提供(啓発情報誌の制作・配布) ・人権問題視聴覚教材の整備(「明日への伝言板」制作・放送等) ・人権研修会の開催等	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 講演会、研修等参加人数 人権講演会、研修会などの参加を促進することで、人権問題に対する正しい理解を深め、人権を自分自身の課題としてとらえられる市民が増えることにつながるものと認識しています。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 9,748 人 10,000 人	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	保健福祉局
		担当課	人権文化推進課
事業名 人権の約束事運動の推進		課長名	鷹取
		施策番号 Ⅱ - 3 - (1) - ①	
事業概要 人権に関する身近なテーマを約束事として掲げ、その約束事を地域や職場など団体の中で守っていく市民運動です。団体、企業、施設、学校など所在地が北九州市内であれば参加(無料)できます。また、参加登録団体が実施する人権啓発活動に対する補助金制度(人権の約束事運動推進活動支援事業)があります。		事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
		(人件費備考)	
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
	6,000 千円	千円	人件費 目安の金額 課長 0.30 人 係長 0.60 人 職員 1.20 人 18,450 千円

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 参加登録数は予想を上回るペースで増加しており、市民センター全館も登録している。今後は、市民センターを中心とした、市内各地域での約束事運動への取組を活性化させることが課題です。	見直し内容	人権啓発の取組が積極的な市民センターに対し、同センターを拠点に活動するまちづくり協議会や社会福祉協議会などの団体にも参加をよびかけるよう依頼を行い、また、補助金交付団体に市民センター関連団体が増加したこともあり、地域全般で約束事運動に参加するよう依頼します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民センターを中心とした地域や企業、事業所などの職域	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 人権の約束事運動への参加をきっかけに、人権尊重の機運が盛り上がり、「人権文化のまちづくり」が推進されること	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 「人権文化のまちづくり」の推進 市民一人ひとりが人権尊重の精神を正しく身につけ、人権を尊重することが市民の日常生活の中で当たり前の行動として自然に現すことができる社会をつくることです。 (最終目標と目標年度) 「人権文化のまちづくり」の推進 北九州市民の人権問題への関心層の割合 人権問題への関心や取組意識を高めることを目標とします。具体的には、平成27年度実施の人権問題に関する意識調査(5年ごとに実施)において、人権問題への関心層の割合が前回(平成22年度)の調査実績(59.1%)を上回ることが目標です。 (最終目標と目標年度) 前回調査比増(毎回)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 27年度目標 「人権文化のまちづくり」の推進 「人権文化のまちづくり」の推進 59.1%超	27年度実績(達成率) 成果の状況評価理由		

活動計画	どうやって目的を達成するか ・人権関連団体の参加登録促進 ・人権の約束事運動推進活動支援事業(補助金) ・マスコットキャラクターを活用した人権の約束事運動のPR ・積極的な取組を行う団体の表彰及び紹介	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 人権の約束事運動の参加登録団体数 市全域での市民運動とするためには、まずは参加登録団体数を増加させ、少しでも多くの方々に約束事運動に取り組んでいただくことが必要となります。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 27年度目標 842 団体 1,100 団体	27年度実績(達成率) 活動の状況評価理由		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	高齢者支援課		
		課長名	金井		
事業概要					
事業名	権利擁護・市民後見促進事業				施策番号
					Ⅱ - 3 - (1) - ②
事業概要	弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職による第三者後見人が将来不足することに備え、契約能力の低下した認知症高齢者等に対し、福祉サービスの利用調整や日常生活の見守りを中心とした成年後見業務を担う「市民後見人」を養成するとともに、養成した後見人を登録し、後見業務を法人として提供する機関に補助金を交付し、成年後見制度の利用促進を図ります。				事業手法
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費
		7,520 千円	千円		目安の金額 3,075 千円 課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 高齢化の進行や、認知症高齢者数の増加に伴い、第三者後見人の不足が見込まれます。さらに、後見人の担い手として養成研修を行い、安定した成年後見制度の推進を図る必要があります。	見直し内容 引き続き養成研修を行うとともに、研修修了者の活躍の場を確保するため、法人後見の補助を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 判断能力が不十分な高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 権利が守られる状態にします。そのために担い手を育成し権利を守るサービスを提供します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	法人後見受任件数(年度末件数) 市民後見人養成研修の修了者が第三者後見人として単独で後見業務を受任することが現状困難な為、北九州市社会福祉協議会が市民後見人の受け皿となって法人後見業務を行い、成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)前年度水準維持(毎年度)	48 件	前年度水準を維持		

活動計画	どうやって目的を達成するか 市民後見人養成研修を実施するとともに、家庭裁判所等の関係機関と連携を強め、市民後見人を活用した法人後見業務を提供します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市民後見人養成数(累計) 社会貢献活動に熱意を抱く市民を対象に市民後見人養成研修を行っていくことで、成年後見制度の担い手を増やしていきます。	106 人	前年度比増		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要					担当局	保健福祉局
					担当課	認知症対策室
					課長名	金井
事業名	認知症啓発・早期発見推進事業				施策番号	
事業概要					II - 3 - (1) - ②	
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人
	11,300 千円	千円			3,075 千円	(人件費備考)
						<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()

【Action】改善			
課題	H25年度の認知症予防と脳の健康度テストの参加人数については、順調に増加しているが、本市におけるMCIの人の状況や、他の予防事業との役割分担など、事業のあり方も含め、内容の検討が必要です。	見直し内容	平成27年度に事業のあり方や事業内容について検証を行い、対象者にとって真に必要な事業とする。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」を実現する。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	認知症の人の地域生活の推進	認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち	「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」の実現		
	保健、医療、福祉、地域社会が連携・協働しながら、「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」を実現します。				
	(最終目標と目標年度)「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」の実現 目標年度なし				

活動計画	どうやって目的を達成するか 認知症予防の話と脳の健康度テストについては、引き続き市民の方の参加の機会の確保に努めます。また、認知症啓発月間街頭啓発活動については、認知症についての啓発をすすめるために、今まで参加していなかった団体に参加していただけるよう、参加を働きかけます。市民の方の認知症予防に対する理解が進み、予防活動の広がりを図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	活動の状況 評価理由	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	街頭啓発活動参加団体数	14 団体	平成24年度の水準より増加		
	地域社会での取り組みを推進するため、街頭啓発活動に今まで参加していなかった団体に参加を働きかけます。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	認知症対策室		
		課長名	金井		
事業概要		施策番号			
事業名	認知症対策普及・相談・支援事業				II - 3 - (1) - ②
事業概要	認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指し、認知症を理解して、認知症の方を地域で温かく見守り、支える「認知症サポーター」の養成に取り組みます。また、認知症の本人や家族及び高齢者を介護する家族が抱える不安や悩みなどを気軽に相談できるコールセンターを設置します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人
	10,524 千円	千円		4,325 千円	係長 0.15 人 職員 0.30 人
					(人件費備考)

課題	H25年度の評価結果を受けての課題 地域における認知症の正しい理解の啓発のために、認知症サポーター養成者数のさらなる増加が必要。	見直し内容	市内の小中学校や企業などを対象とした、認知症サポーター養成講座の開催を強化する。
----	---	-------	--

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	北九州市を「認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」にするために、認知症を理解して、認知症の方を地域で温かく見守り、支える「認知症サポーター」の養成に取り組むとともに、介護にあっている家族の精神的・身体的な負担の軽減を図るため認知症の本人や家族及び高齢者を介護する家族が抱える不安や悩みなどを気軽に相談できる認知症コールセンターを設置します。			
		指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 認知症サポーター養成講座受講者数(累計) 北九州市を「認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」にするためには、市民に対する認知症の正しい知識・理解の普及が必要で (最終目標と目標年度)平成29年度までに7万人	上段:25年度実績 下段:26年度実績 43,698 人	27年度目標 60,000 人	27年度実績(達成率) 成果の状況評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	認知症サポーター養成講座では、大人だけでなく、中学生や高校生などの若い世代への普及・促進に力を入れて取り組むこととしています。さらに、認知症コールセンターなどの業務を通し、実際に認知症になった人や家族が安心して暮らしていけるまちの実現に努めていきます。			
	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 認知症・介護家族コールセンター相談件数 認知症に関する正しい理解と啓発を図り、認知症に関する相談をしやすい環境を整備します。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 311 件	27年度目標 300 件	27年度実績(達成率) 活動の状況評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	高齢者支援課		
		課長名	金井		
事業概要					
事業名	権利擁護・市民後見促進事業			施策番号	
				Ⅱ - 3 - (1) - ③	
事業概要	弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職による第三者後見人が将来不足することに備え、契約能力の低下した認知症高齢者等に対し、福祉サービスの利用調整や日常生活の見守りを中心とした成年後見業務を担う「市民後見人」を養成するとともに、養成した後見人を登録し、後見業務を法人として提供する機関に補助金を交付し、成年後見制度の利用促進を図ります。			事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	27年度当初予算額 7,520 千円	27年度執行額 千円	(事業費備考) 目安の金額 3,075 千円	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人	(人件費備考)

【Action】改善				
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 高齢化の進行や、認知症高齢者数の増加に伴い、第三者後見人の不足が見込まれます。さらに、後見人の担い手として養成研修を行い、安定した成年後見制度の推進を図る必要があります。	見直し内容	引き続き養成研修を行うとともに、研修修了者の活躍の場を確保するため法人後見の補助を行います。	

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 判断能力が不十分な高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 権利が守られる状態にします。そのために担い手を育成し権利を守るサービスを提供します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 法人後見受任件数(年度末件数) 市民後見人養成研修の修了者が第三者後見人として単独で後見業務を受任することが現状困難な為、北九州市社会福祉協議会が市民後見人の受け皿となって法人後見業務を行い、成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)前年度水準維持(毎年度)	上段:25年度実績 下段:26年度実績 48 件	27年度目標 前年度水準を維持	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか 市民後見人養成研修を実施するとともに、家庭裁判所等の関係機関と連携を強め、市民後見人を活用した法人後見業務を提供します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 市民後見人養成数(累計) 社会貢献活動に熱意を抱く市民を対象に市民後見人養成研修を行っていくことで、成年後見制度の担い手を増やしていきます。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 106 人	27年度目標 前年度比増	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	保健福祉局
						担当課	障害福祉課
						課長名	坂元
事業名	障害者差別解消法推進事業					施策番号	
						Ⅱ - 3 - (1) - ③	
事業概要	「障害者差別解消法」に基づく支援措置等の整備を通じ、障害を理由とした差別の禁止や合理的な配慮を通じて共生社会の実現を目指す					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
							(人件費備考)
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長	1.00人
	6,000 千円	千円			29,000 千円	係長	1.00人
						職員	1.00人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 障害を理由とする差別の解消が必要です。	見直し内容	平成26年度の実施状況により、必要に応じて見直します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民、事業者及び行政	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 平成25年6月19日に成立した「障害者差別解消法」を広く啓発するとともに、平成28年4月1日の法施行に向け、「対応要領」の策定等の体制整備を実施することで、全ての市民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 市民等における「障害者差別解消法」に対する認識を深めます 市民等における「障害者差別解消法」に対する認識が深まっていることを数値で表すことは困難です。国が示した「基本方針」等の内容を精査しつつ、シンポジウムの開催、出前講演、説明会の開催等、成果を検証できる客観的指標について検討します。 (最終目標と目標年度)平成28年度:法により要請される体制の整備	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	—		「障害者差別解消法」への認識の向上		

活動計画	どうやって目的を達成するか 「障害者差別解消法」により義務あるいは努力義務と定められている各種体制の整備(対応要領の策定、相談・紛争解決の体制の整備、障害者差別解消支援地域協議会の設置など)を推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 障害者差別解消法連絡会議の開催	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	—		定期開催		
	—		体制整備		
	共生のまちづくりを進めるため、障害者、民間事業者等の様々な分野の方がそれぞれの役割や連携について話し合う会議を定期的に開催します 「対応要領」策定、相談・紛争防止のための体制整備、差別解消支援地域協議会等の支援措置の整備 平成28年4月に向けて法が求める支援措置の整備を図ります				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理 【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	総務課		
		課長名	永富		
事業概要		施策番号			
事業名	戦没者等慰霊事業				Ⅱ - 3 - (4) - ①
事業概要	市主催の戦没者追悼式(旧5市の単位で5ヶ所)、海外における福岡県出身戦没者の慰霊巡拝、市内5ヶ所に設置されている忠霊塔等の維持管理、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典等による戦没者等の慰霊に関する事業。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人
	6,203 千円	千円		3,075 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人
					(人件費備考)

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 戦没者等の慰霊に対するご遺族の想いを重く受けとめ、戦争の記憶を風化させることなく、次世代へ戦争の悲惨さや平和の尊さを確実に伝えていく必要があります。	見直し内容 今後も遺族連合会などの関係団体と連携して追悼・慰霊事業を継続的に実施します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 戦没者や原爆の犠牲者に対する追悼の心を持ち、また援護していく必要性を感じ、併せて平和の尊さを理解し共有すること。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) すべての市民が戦没者や原爆の犠牲者に対する追悼の心を持ち、また援護していく必要性を感じ、併せて平和の尊さを理解し共有すること	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	市主催の戦没者追悼式や原爆犠牲者慰霊平和祈念式典等の追悼・慰霊行事や、戦傷病者や遺族に対する援護事業を継続して実施します。 (最終目標と目標年度) 市民の戦争に関する記憶が風化することなく、また慰霊の心や、援護に対する心を持つ	—	市民の戦争に関する記憶が風化することなく、また慰霊の心や、援護に対する心を持つ		

活動計画	どうやって目的を達成するか 「戦没者追悼式」を市内5ヶ所で開催し、また、8月9日に「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」を行います。また、海外における福岡県出身戦没者の慰霊巡拝に職員を派遣します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 戦没者追悼式や原爆犠牲者慰霊平和祈念式典、戦没者の慰霊巡拝等の実施	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	戦没者追悼式を市内5ヶ所で主催する他、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典での慰霊等を行い、多くの方の参列を受け入れます。また、海外における戦没者を慰霊するため、慰霊巡拝に職員を派遣します。	—	継続的に実施します。		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	総務課		
		課長名	岩佐		
事業概要					
事業名	買い物応援ネットワーク推進事業(旧:地域協働による買い物支援モデル事業)			施策番号	Ⅲ - 1 - (1) - ①
事業概要	高齢化や都市化が進む地域の現状を踏まえ、高齢者などが安心して買い物できる環境づくりを進めるため、民間事業者と地域をつなぐ仕組みづくりや、地域住民が主体となった買い物支援活動の立ち上げ支援に取り組み、地域社会の協働による買い物支援のネットワークの構築を図ります。			事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額 課長 0.05 人 係長 0.20 人 職員 0.50 人 (人件費備考)
		4,000 千円	千円		6,325 千円

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	地域協働による買い物支援の推進を図るため、平成25～26年度のモデル地区における活動の成果を更に広げていく必要があります。また、多様な主体の買い物支援への参画を進めるため、買い物応援ネットワーク会議をはじめ、地域と事業者をつなぐ仕組みの定着を図る必要があります。 新たな対象地区の選定と買い物支援に係る地域活動計画の作成、まちづくりコーディネーターの対象地区への派遣、買い物応援ネットワーク会議への多様な事業者の参加など、これまでの成果を生かした取り組みを更に進めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 高齢化が進み、加えて身近に生鮮食料品などの店舗がなく、日々の買い物に困難を抱える地域 移動販売や宅配など、買い物支援に取り組む民間事業者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 買い物支援への意欲ある民間事業者と、地域住民、地域活動団体などの協力のもと、地域ニーズに対応した買い物支援の取り組みの定着を目指します。また、買い物支援の取り組みを通して、高齢者の見守り・交流や地域コミュニティの活性化、新たな協働による生活支援のネットワーク形成を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 地域協働による買い物支援の取り組みの推進 地域住民、民間事業者、行政など、地域社会の協働による買い物支援の取り組みを広げていくことにより、高齢者の買い物への負担感や不安を解消し、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。 (最終目標と目標年度)地域協働による買い物支援の取り組みの推進	上段:25年度実績 下段:26年度実績 27年度目標 地域協働による買い物支援の取り組みの推進 地域協働による買い物支援の取り組みの推進	27年度実績(達成率)		成果の状況評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか 事業者と地域を「つなぐ」仕組みとして、幅広い関係者の参加のもと、買い物応援ネットワーク会議を開催します。あわせて、ホームページ等を活用した民間及び地域情報の集約と発信に取り組めます。また、新たな対象地区を選定し、コーディネーターの支援のもと、買い物支援に係る地域活動計画の作成に取り組めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 買い物支援に係る地域活動の実施 地域住民が主体となった買い物支援の取り組みを進めるため、平成25～26年度に続いて新たな対象地区を選定し、まちづくりコーディネーターの支援のもと、買い物支援の地域活動計画を策定し、実施に移します。 買い物応援ネットワーク会議における事例発表団体数(累計) 買い物応援ネットワーク会議を開催し、事例発表や出展、交流、意見交換などを行います。会議の中で、今まで事例発表をしていなかった団体に働きかけ、発表を行っていただくことにより、買い物支援の取り組みの拡がりにつなげます。	上段:25年度実績 下段:26年度実績 27年度目標 7 地区 前年度比増 3 団体 前年度比増	27年度実績(達成率)		活動の状況評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	保健福祉局	
						担当課	障害福祉課	
						課長名	坂元	
事業名	障害者スポーツ振興事業					施策番号		
						Ⅲ - 2 - (3) - ①		
事業概要	障害者のスポーツ大会や、各種スポーツ教室等を開催、障害者団体等によるスポーツ大会等への支援を行います。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額	課長 0.01人 係長 0.04人 職員 0.07人
		52,794 千円	千円				1,063 千円	(人件費備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員・ボランティアも関わっています。

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	当事業は施策に対する有効性は高く、「社会参加の促進」を図っていく上で重要な事業です。今後も、より参加しやすい大会や教室になるよう工夫していく必要があります。	見直し内容
			今後も、さらなる社会参加の促進に向けて事業を継続し、より参加しやすい大会や教室になるよう工夫します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	障害のある方	スポーツを通じた社会参加の促進				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	障害者スポーツ教室等参加者数		4,822 人	平成26年度の水準より増加		
	教室参加者の特性を十分に考慮し、安全かつ安心して参加できる教室になるように努めます。 (最終目標と目標年度)前年度比増 毎年度					
	北九州市障害者スポーツ大会参加者数		542 人	平成26年度の水準より増加		
大会参加者が、安全かつ安心して参加できる大会となるように努めます。 (最終目標と目標年度)前年度比増 毎年度						

活動計画	どうやって目的を達成するか	北九州市障害者スポーツ大会や各種の障害者スポーツ教室を開催するとともに、障害者団体等によるスポーツ大会の開催や参加への支援を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	障害者スポーツ教室等開催回数		105 回	125 回		
	教室参加者の特性を十分に考慮し、安全かつ安心して参加できるスポーツ教室を開催します。					
	北九州市障害者スポーツ大会開催		開催	開催		
障害のある方が、安全かつ安心して参加できる大会を開催します。						

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	障害者就労支援室		
		室長名	坂元		
事業概要					
事業名	障害者就労支援事業			施策番号	
				IV - 3 - (2) - ③	
事業概要	障害者しごとサポートセンターを拠点に、障害者本人の能力や特性に応じたきめ細かな対応を行うとともに、新たな職場開拓や企業の意識啓発及び就労移行支援に対する効果的な支援への取組みを通じて、障害者の雇用促進を目指します。			事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)		課長 0.03 人 係長 0.20 人 職員 0.10 人
事業費	40,544 千円			3,095 千円	

【Action】改善				
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	成果使用とした「就職件数」や「移行人数」について、ともに増加しており、大変順調と評価しています。しかし、今後、精神障害者の雇用義務化を含む法定雇用率の引上げが平成30年度に予定されており、就業支援や職場定着支援など、障害者のみならず雇用主からのニーズも高まっています。また、平成24年度と25年度を比較した際、総相談件数が1,600件増加しており、就労にかかる支援の他、生活や医療等に関する支援、関係機関へのつながりが必要な件数が増加しています。これらの状況に対応するために、一時相談所としての体制の強化が必要となっています。	見直し内容	障害者しごとサポートセンターを拠点とした体制を継続し、障害者の就職支援だけでなく、生活・医療等の支援が必要なケースへの関係機関との連携強化や、職場定着支援を継続により、市民ニーズに応えます。また、相談者への支援にとどまらず、特別支援学校生やその保護者及び就労移行支援事業所利用者を対象とした企業見学会など各種企画を実施し、支援対象者への早期就労支援体制の構築を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	就労を希望する障害者とその支援者、特別支援学校生とその保護者、および雇用主	障害者しごとサポートセンターを拠点に、障害者本人の能力や特性に応じたきめ細かな対応を行うとともに、新たな職場開拓や企業(雇用主)の意識啓発、および就労移行支援事業所等が実施する就労支援に対する効果的な支援への取組みを通じて、障害者の雇用促進を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	障害者しごとサポートセンター利用者の就職人数	90 人	90人以上		
	支援対象となる障害者が、職業準備訓練や職場実習あっせん、職場定着支援などの障害者しごとサポートセンター提供のサービス利用者を通じて、実際に企業に就職した数 (最終目標と目標年度) 平成29年度:90人				
	福祉施設から一般就労への移行人数	110 人	58人以上		
	障害者の就労を目指す就労移行支援事業所等の利用者が、実際に企業へ就職した数 (最終目標と目標年度) 平成29年度:58人				

活動計画	障害者が地域でいきいきと自立した生活を送れるよう、「社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会」に運営委託している障害者しごとサポートセンターを拠点として、就職を希望する障害者に対し、指導や助言、職業訓練や職場実習の調整・あっせん、能力や適性に応じた職業紹介の調整などの支援を行うとともに、就職後の職場定着支援や新たな職場の開拓を行うほか、企業の障害者雇用に対する理解の進展を図ります	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	相談・支援件数	7,355 件	平成26年度の水準より増加		
	窓口に来所した登録者の相談受付や、会社面接や区役所・ハローワーク等公共機関への動向、家庭訪問、障害者が就職した会社を訪問して定着支援などの件数				
	職業準備訓練および職場実習のあっせん件数	43 件	平成26年度の水準より増加		
	継続および新規でしごとサポートセンターに登録している障害者に、職業準備訓練や職場実習をあっせんした件数				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>